

- ・たまプラーザ駅南口から…徒歩約 5 分
- ・あざみ野駅から……………徒歩約20分
- ・鷺沼駅から……………徒歩約15分
- ・渋谷駅から……………東急田園都市線(長津田・中央林間行)で、たまプラーザ駅まで約25分
- ・横浜駅から……………横浜市営地下鉄ブルーライン(あざみ野行)終点あざみ野駅で、東急田園都市線(渋谷・押上方面行)に乗換え、たまプラーザ駅まで約30分
- ・羽田空港から……………バスでたまプラーザ駅まで約50～70分

問い合わせ先

◆入学試験に関して
03-5466-0141 (入学課)

◆観光まちづくり学部について
045-904-7700 (たまプラーザ事務課)

〒225-0003
神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1
國學院大學
横浜たまプラーザキャンパス

観光まちづくり学部についてホームページで紹介しています。

私たちが目指す観光まちづくりについて、いっしょに学んでみませんか？

観光まちづくり学部
ホームページ



観光まちづくり学部

GUIDEBOOK 2022

観光まちづくり学部

GUIDEBOOK 2022

地域の
夢

國學院大學

もっと日本を。もっと世界へ。



ようこそ！ 観光まちづくり学部へ

こうして観光まちづくり学部の1期生の皆さんをお迎えできるのを大変うれしく思います。地域に軸足を置いた観光とまちづくりの新しい学部は、広く日本全体を見渡しても新しい試みです。われわれ教員も皆さんと同じく、たまプラーザキャンパスの新しいメンバーであり、これから新しい伝統を築き上げていく同志です。

皆さんも新しい大学生活に期待と不安が入り交じった心境だと思います。ましてや新しい学部の第1期生です。だからこそ、すべての新入生の皆さんが充実した大学生活を送れるように、教員一同、一緒に悩み、一緒に汗をかいていきたいと思います。必要なことは何でも問題提起してほしいと思います。学生と教員とが一体となって、新しい学部の道すじを付けていくのです。道は私たちの前にあるのではなく、私たちが歩いた跡が道になっていくのです。

私たちが作り上げようとしている観光まちづくりという学問は、地域の夢に形を与えることを目指す前向きな学問です。そのための知恵と技術の体系をともに組み立てていきたいと思います。そうした営みが地域に新しい息吹をもたらし、可能性を広げることにつながるのです。住んでいる人にとって充実感が持てる地域は、訪れる人にとっても魅力的な地域のはずです。

その手がかりとしてこの学部ガイドブックを用意しました。ここから大学生活の新しい展望を広げていってほしいと思います。ようこそ！私たちみんなで作る観光まちづくり学部へ。

國學院大學 観光まちづくり学部

学部長 西村 幸夫



目次

P 2	学部の紹介	P38	進路・就職
P 6	大学の紹介	P42	学内施設等案内
P 8	カリキュラム	P48	地形図で見るたまプラーザキャンパス
P24	教員の紹介	P50	入試情報
P30	地域マネジメント研究センター	P52	アクセス情報
P34	学びのサポート		

観光まちづくりとは —12のキーマッセージを読み解く—

観光まちづくり学部 学部長 西村 幸夫

「地域を見つめ、地域を動かす」——これは私たち観光まちづくり学部が最初に掲げたメッセージです。しかし、短文なので、「地域を見つめ」ということは具体的に何をどうすることなのか、「地域を動かす」と言っても、何をしたら地域が動いたことになるのか、いったいどちら向きに地域を動かすべきなのか、などということについては、説明するに至っていません。

それを補い、地域の現場で何をどうすれば、「地域を見つめ、地域を動かす」ことになるのかについて、12のキーマッセージに分解して図解したのが、5ページの一覧です。これら12のキーマッセージをどのように読み解けばいいのか、説明したいと思います。

左端に大きなアイコンが4つあります。上から順に地域環境、地域社会、地域経済、そして一番下がそれら全体のマネジメントそれぞれの場面でのアクションを表しています。

たとえば一番上の地域環境に関して、観光まちづくりという視点でこれに接近する手立てとして「地域の個性をみつけ、みがく」ことが挙げられるわけです。地域を見つめるということは、ここでは具体的に地域の個性をみつけることとして例示され、次いで地域を動かすということは地域の個性をみがくこととして描かれています。

さらにその下に、2つの小さなアイコンがあります。地域の個性をみつけるということが地域の物語の読み解きとして示され、地域の資源を生かすことが地域を元気にし、ひいては地域環境を守ることにもつながることが語られています。

同様に、二番目の地域社会に関しては、地域での多様なネットワークを取り上げ、地域に愛されることや、地域で出会えるワクワク感の大切さを挙げています。元気が出るようなつながり方が大切なのですね。

三番目の地域経済については、地域内での経済循環、いわゆる地産地消の大切さと安全安心のレジリエンスを取り上げています。

ここまでの3つの柱、すなわち地域環境と地域社会、地域経済の柱は観光まちづくりを進める際の基本となるものです。いずれが欠けても観光まちづくりは成立しません。そしてこの3つの柱は地域のサステナビリティを支える柱でもあります。

そして最後のアイコンがこれら3本の柱を支えるマネジメントに関するものです。それは人材と仕組みづくりからなっています。多様な人材が世代を超えて結びつき、継続的に物事に取り組める仕組みをつくることによって、観光まちづくりがサステナブルなものになっていくのです。

観光まちづくり学部のカリキュラムはこれら4つの柱を中心に組み立てられています。専門教育の中核となる展開科目はⅠ類(社会)、Ⅱ類(環境)、Ⅲ類(政策・計画)、Ⅳ類(交流・産業)からなっていますが、この4つの類の構成は、おおむねこれら4つのアイコンの柱に対応しています。そしてこれらを横つなぎするのが、必修の観光まちづくり演習です。地域の現場に出かけることによって、「地域を見つめ、地域を動かす」ということは具体的にはどういうことなのかを体感しようというプログラムになっています。

観光まちづくり学部は、地域に軸足を置くことによって、魅力ある地域づくり・魅力ある観光地づくりのエキスパートを育てることを目指しています。

5ページの12のキーマッセージを通して、観光まちづくりから広がる世界の扉をぜひ、開けてみてください。——そこからあなたの観光まちづくりが始まるのです。

わたしたちが目指す「観光まちづくり」

—地域を見つめ、地域を動かす—



1. 地域の個性をみつけ、みがく

いつの時代でも地域をじっくり見つめ、地域の個性をみつけ、みがいていくことが「観光まちづくり」の出発点です。



地域の物語を読み解き、伝える

自然や歴史、文化に育まれた「地域の物語」を丁寧に読み解き、地域の人々にも訪れる人々にも伝えていきます。



地域の資源を活かすことで守る

地域の資源を活かすことが、地域の資源と環境を守ることにつながる「循環的な仕組み」をつくっていきます。



2. 地域の多様なつながりをつくり、活かす

日々の暮らしや交流の中にある多様で多層なつながりを見つめなおし、地域課題の解決へ活かしていきます。



地域に愛されることを大切にする

地域の人々に日常的に愛されるモノ・コトを大切にし、つながりを広げます。



地域で出会えるワクワク感を大切にする

地域でのリアルな空間体験と出会いによるワクワクを生み出し、活かしていきます。



3. 地域の暮らしを支え、豊かにする

人口減少・少子高齢化のなか、地域外の人々と共に、地域の暮らしを支え、豊かにする「観光まちづくり」を目指します。



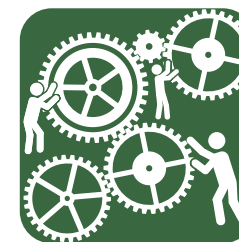
観光や交流の恵みを地域内で循環させる

多様な生業に関わる人々が連携して、観光や交流による恵みを地域内に広く波及、循環させていきます。



地域のレジリエンスを高める

地域内外の多様な人々との支え合いで、日常的に地域の足腰を強くし、危機や変化にしなやかに対応できる地域を目指します。



4. 地域の未来をつくる人材と仕組みを育てる

地域の未来のために、夢をもって活動できる人材と、継続的に取り組める仕組みをじっくり育てていきます。



多様な人々が活躍できる場をつくる

様々な背景の人々、幅広い世代が、個性を活かして活躍できる場をつくっていきます。



継続して取り組める仕組みをつくる

「観光まちづくり」を継続するための社会的・経済的な仕組みをつくり、地域を動かします。

飯田町校舎(明治41年竣工)



國學院大學～その歴史と理念～ そして観光まちづくり学部誕生へ

國學院大學は、1882(明治15)年に創立された皇典講究所を出発点としています。そして、1890(明治23)年にこれを母体として「國學院」と称することとなりました。

「國學院大學学則」第1条には「本学は神道精神に基づき人格を陶冶し、諸学の理論並びに応用を攻究教授し、有用な人材を育成することを目的とする」と規定されています。つまり、その研究・教育の理念は、諸学問を通じて日本の伝統文化を明らかにして、国や地域への貢献、国際社会の発展に寄与するとともに、自己の個性を最大限に発揮することのできる人材を育成することにあります。

國學院大學は、この建学の精神である「神道精神」(日本人としての主体性を保持した寛容性と謙虚さ)に基づき、その学問の基礎を日本の伝統文化を探究する「国学」に求めて、多種多彩な諸学問による研究・教育を行い、明治・大正・昭和・平成と、様々な分野に多くの有為な人材を送り出してきました。

1985(昭和60)年、「たまプラーザキャンパス」を設け、平成に入ると、2002(平成14)年の創立百二十周年を期して、「國學院大學21世紀研究教育計画」を策定し、渋谷キャンパスの再開発、人間開発学部や研究開発推進機構の設置を行いました。

そして令和の時代。2022(令和4)年4月、たまプラーザキャンパスに新たな学部「観光まちづくり学部」が誕生し、さらなる発展をめざしています。

新しい学部での新しい学びを通じて、自己の個性を最大限に発揮し、地域を、そして日本を引っ張っていく人材になりましょう。



三矢重松教授の授業風景(大正5年)

新石川校舎(昭和60年)



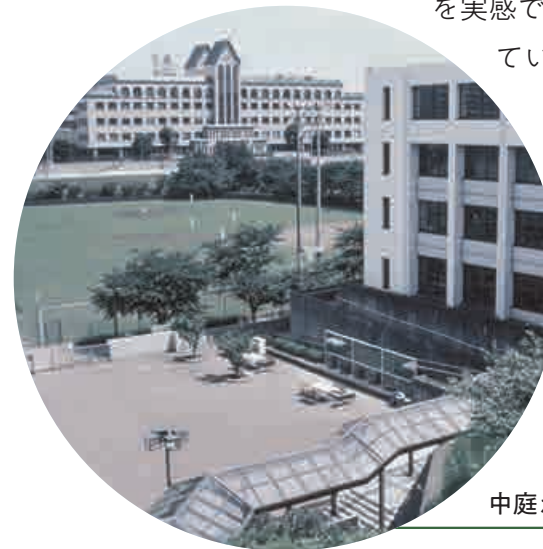
たまプラーザキャンパスの歴史と環境

たまプラーザキャンパスは、1985(昭和60)年に八王子分校舎から移転した新石川校舎が始まりです。その後、1992(平成4)年から授業が始まり、2009(平成21)年には人間開発学部が開設されました。そして、2022(令和4)年、いよいよ観光まちづくり学部が開設されます。

たまプラーザキャンパスは、八王子から連なる多摩丘陵の一角にあります。キャンパス内も教育棟のある高台、球技場などのある窪地からなり、台地や丘陵が連なる横浜ならではの地形を実感できます。キャンパスには桜の古木も多く、桜の名所にもなっています。

また、東急田園都市線たまプラーザ駅より徒歩わずか5分という好立地にあるいっぽうで、周囲は閑静な住宅地となっており、キャンパスも緑豊かで穏やかな空気に満ちています。

この至便かつ落ち着いた雰囲気は、観光まちづくり学部のキャンパスにふさわしいものといえましょう。



中庭から若木21を望む(平成14年)

こくびょんと観光まちづくり

こくびょんは、國學院大學の公式キャラクターです。学生がデザインしました。

『古事記』の中の神話の1つ「因幡の白兔」に登場する白いウサギがモチーフで、耳には榊の葉を飾り、首から勾玉をかけています。頑張り屋さんですが、マイペースな性格です。入学式や卒業式などの式典や、オープンキャンパスなどのイベントではキャンパスにも現れます。「キャンパス内でこくびょんに出会うと、その人に良いことがある」とも言われています。

観光まちづくり学部のこくびょんもいます。地域に出かけ、地域を見つめ、地域とともに考える意欲?をみせています。



観光まちづくり学部の理念・学位授与方針

観光まちづくり学部では、地域に対する深いまなざしに基づき、地域社会の現状と課題を理解し、地域資源の保全活用と地域を動かす様々な人々の連繋によって、地域を主体とした観光や交流を促すとともに、活力あふれる地域を実現できる人材を養成します。

そのために、社会、資源、政策・計画、交流・産業に関する知識・技能を身につけ、地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力を有した人材を養成するための教育を行います。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

【知識・技能】

DP-A1 多様な現代社会を理解する深い教養を身につけ、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。

DP-A2 地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の様態、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。

DP-A3 観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に向けて、具体的な地域の特性や課題を的確に把握・分析できる。

【思考力・判断力・表現力】

DP-B1 学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べることができる。

DP-B2 自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにして、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。

【主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度】

DP-C1 社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。

DP-C2 学修した知識や技能を活用して、現実の地域社会に働きかける実践的な態度で学ぼうとする。

以上の能力を身につけるために設けられた教育課程を履修して所定の単位を修得した者に「学士(観光まちづくり)」(英訳名称：Bachelor of Tourism and Community Development)の学位を授与します。



履修について

卒業に必要な単位

観光まちづくり学部では、共通教育科目を26単位以上、専門教育科目を74単位以上修得し、かつ全体で124単位以上修得することを卒業要件としています。自由選択領域の24単位は、学生が自らの興味・関心に基づいて共通教育科目、専門教育科目、全学オープン科目から自由に修得できます。

卒業要件

科目区分	卒業に要する 単位数
共通教育科目	26単位以上
専門教育科目	74単位以上
自由選択領域	24単位
合 計	124単位以上

専門教育科目の履修条件

科目区分		履修方法	単位数	
導入科目		必修科目	4単位	
メソッド科目		必修科目	2単位	
		選択必修科目	4単位以上	
演習科目		必修科目	18単位	
		選択必修科目	2単位以上	
展開科目 44単位以上	基礎 26単位以上	I類 (社会)	選択必修科目	4単位以上
		II類 (資源)	必修科目	2単位
			選択必修科目	4単位以上
		III類 (政策・計画)	必修科目	2単位
			選択必修科目	4単位以上
		IV類 (交流・産業)	必修科目	2単位
			選択必修科目	4単位以上
		発展		選択科目

共通教育科目

- 共通教育科目は、大学で学修する上でも生涯学び続ける上でも必要なスキル、社会に主体的に参加するために必要な知識やスキルを修得する全学共通のカリキュラムで、6つの科目群からなります。
- 観光まちづくり学部の学生は、必修科目として國學院科目群の「神道と文化」と言語スキル科目群の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を履修し、選択必修科目として「第二外国語Ⅰ」「第二外国語Ⅱ」※を履修します。その他は、STEM系科目群から1科目以上を履修することが履修条件となっていますが、各自が自由に組み合わせて履修することができます。

※第二外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語の中から自身で選択した同一の言語を履修します。

國學院科目群	言語スキル科目群
STEM系科目群	シチズンシップ科目群
専門教養科目群	ライフデザイン科目群

共通教育
科目

専門教育科目

- ・導入期(1年前期)から基礎期(1年後期～2年前期)は、多様な社会のあり方に対する構造的な見方の基礎となる社会学の学びと、観光や交流が地域に与える影響の多面性や地域に働きかけるまちづくりの基本的な知識と考え方を身につけます。
- ・発展期(2年後期～4年後期)には、学生の興味・関心及び希望する進路に応じて、観光まちづくりに関連するさらに多様な分野の応用的・実践的学びへと深めていきます。
- ・導入期から発展期までの4年間を通して、演習科目が開講され、学修した知識・技能を統合し、地域における観光まちづくりに貢献する実践的な力へと結びつけていきます。

図：専門教育科目の構成と開講年次

		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
		導入期		基礎期		発展期			
専門教育科目	導入科目		●社会学概論 ●まちづくりと観光						
	メソッド科目		●社会調査法入門		●統計分析の基礎 ●プログラミングと数学基礎	●パブリックデザイン (地域と公共空間)	●質的調査法 ●データサイエンス ●プロダクトデザイン (地域と杉)	●多変量解析 ●地理空間情報分析	
	演習科目		●導入ゼミナール		●基礎ゼミナールA	●観光まちづくり演習Ⅰ (調査手法) ●基礎ゼミナールB	●観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析)	●観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) ●専門ゼミナール(通年)	●卒業研究 (通年)
	基礎	I 類 社会			●文化社会学 ●コミュニケーション論	●地域と環境の社会学 ●グローバリゼーション論			
		II 類 資源			●地域資源論 ●博物館概論	●保全生態学概論 ●民俗学概論 ●都市建築史			
		III 類 政策・計画			●公共政策概論	●地方自治概論 ●地域デザイン論 ●国土・都市計画論 ●都市と地域の交通			
		IV 類 交流・産業			●観光学概論 ●観光マーケティング	●観光政策・計画論 ●観光事業論			
	発展	I 類 社会				●ジェンダーの社会学 ●都市とメディアの社会学	●観光社会学 ●コミュニティ論 ●NPOと市民社会	●文化人類学	
		II 類 資源				●風景計画論 ●レクリエーション計画論 ●地域文化創造論 ●地域遺産論	●自然/環境保護行政概論 ●文化行政・文化財行政概論	●世界遺産論	
		III 類 政策・計画				●行財政概論 ●まちづくり論 ●農山漁村論	●住民参加と合意形成 ●都市保全論 ●交通計画 ●地域減災論	●リノベーション論 ●アートと地域振興	
IV 類 交流・産業					●観光行動論 ●ホスピタリティ・マネジメント論 ●旅行産業論 ●宿泊産業論 ●地域の観光情報メディア	●観光地経営論 ●観光食マネジメント論 ●世界の観光政策	●観光経済論 ●田園回帰論		
トピックス科目				●経営学概論	●地域ブランディング論	●運輸・観光実践論 ●ソーシャル・イノベーション	●不動産投資論 ●観光まちづくりリインターンシップ(通年)	●観光危機管理論 ●文化芸術政策論	
関連科目		●哲学・倫理学		●地理学概論	●神道と環境Ⅰ ●博物館資料論※ ●生涯学習概論※	●神社ネットワーク論Ⅰ ●地域と都市の経済 ●観光心理学 ●博物館教育論※ ●博物館資料保存論※	●博物館展示論※ ●博物館情報・メディア論※	●博物館経営論※ ●博物館実習A※	●博物館実習B※

太字：必修科目 ※博物館学芸員課程

導入科目：観光まちづくりの専門教育への入り口

観光まちづくりの専門教育への円滑な導入を図るため、社会学の基本的な理論と、観光や交流を通じたまちづくりの基本的な考え方を学ぶ以下2科目を導入期(1年前期)の必修科目としています。

社会学概論(1年前期・必修)

人間は、社会的存在である。私たちは社会の中に生きているが、社会のことをどれくらい知っているのだろうか。社会は、個人間の相互作用から、家族やコミュニティのような集団・組織、さらには国家と国民の関係に至るまで様々であり、その範囲も非常に幅広い。社会学は、このように広範で複雑な社会の現象を分析し、その構造と変動を明らかにする学問である。

この科目では、社会が人々の行動や思考にどのような影響を与えるか、また、社会構成員はそれにどう反応し、社会を創り上げてきたかを理解するために、社会学の基礎概念、理論、手法を幅広く学ぶ。「近代化」という共通の問いを念頭に置きながら、各回では、政治、経済、技術、文化の諸要因とともに、家族や地域社会、都市と農村、個人の日常生活がどのように変容してきたかを学ぶ。それを踏まえ、社会を多面的、かつ批判的に捉えるための思考力を身につけ、社会の問題と向き合い、より良いあり方を考えるための手がかりを模索する。

まちづくりと観光(1年前期・必修)

観光まちづくり学部が目指す観光や交流を通じた持続可能な地域づくりへ向けて、「地域を見つめ、地域を動かす」ための基本的な考え方と複眼的な見方にふれ、これからの4年間で学ぶべきことの見取り図を得る。

前半では、「まちづくり」と「観光」に関連する基本的な理論と議論を通史的に学んだ上で、首都圏の宿場町や地方の大都市・中小都市等の事例をもとに、「まちづくり」と「観光」双方の出発点及び接点となる「地域の個性」をみつけるための基本的な考え方と見方にふれる。

後半では、「まちづくり」と「観光」の接点が豊富な都市観光地、町並み観光地、温泉地、農山村、自然観光地等の事例をもとに、それぞれの地域が抱える課題と背景を踏まえた上で、「地域の個性」を守り、磨いていくための基本的な道筋と方法の枠組みにふれる。そして、「まちづくり」と「観光」に関わる主体と取組の多様性に気づくことを目指す。

メソッド科目：観光まちづくりの実践を支える調査分析手法やデザイン手法を学ぶ

- ・観光まちづくりの実践に不可欠な社会的な調査手法と、具体的な地域を対象とした分析技術やデザイン手法を身につけるため、以下の9科目を用意しています。
- ・導入期(1年前期)の必修科目として「社会調査法入門」を履修した後は、学生が自らの興味・関心に応じて、2科目4単位以上を履修します。
- ・専門ゼミナール(3年次)や卒業研究(4年次)の所属ゼミやテーマ、自身の進路等を視野に入れて、積極的に履修することを推奨します。

1 年次開講：社会調査法入門(必修)／統計分析の基礎／プログラミングと数学基礎

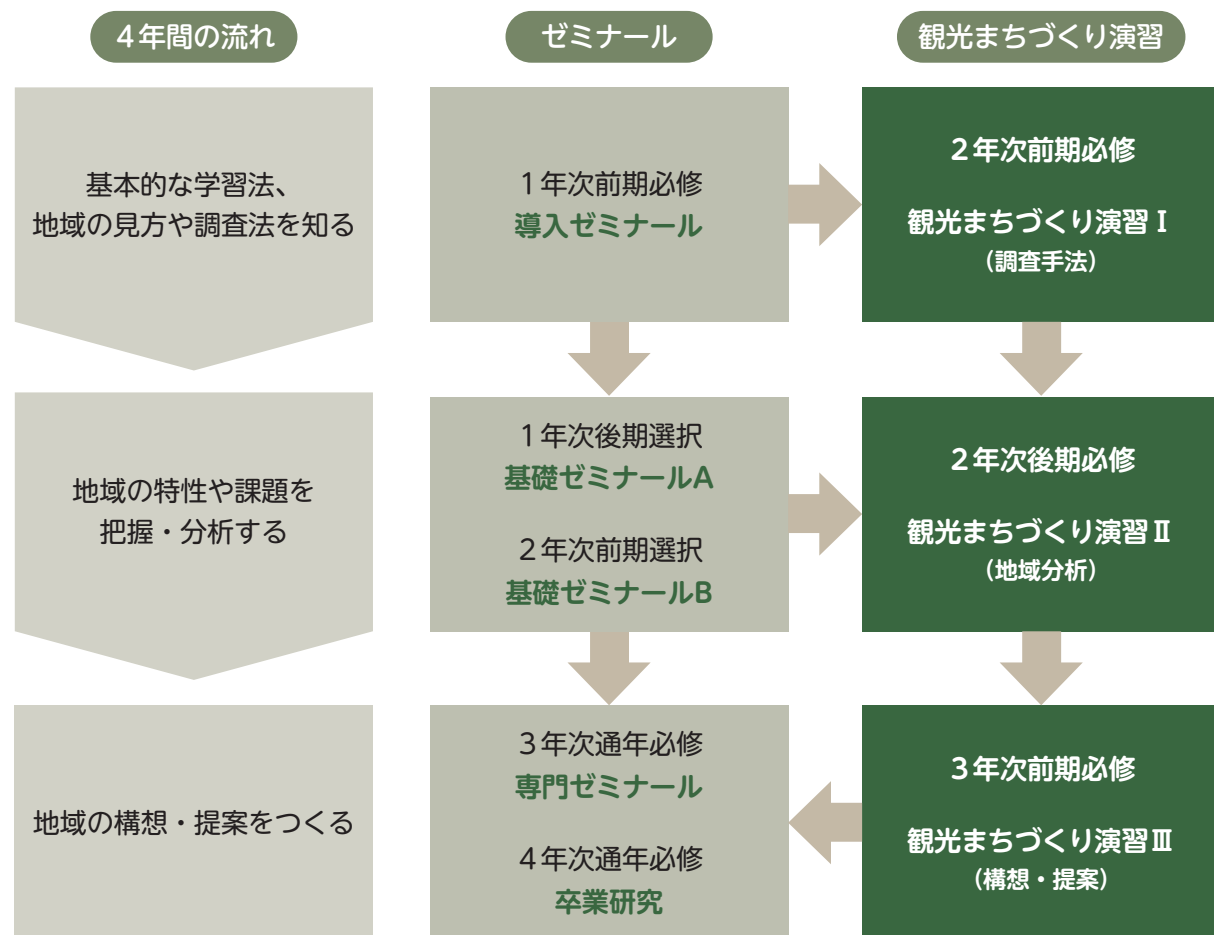
2 年次開講：質的調査法／データサイエンス／パブリックデザイン／プロダクトデザイン

3 年次開講：多変量解析／地理空間情報分析



演習科目：課題解決型学習で観光まちづくりを実践的に学ぶ

- ・演習科目は、各専門分野の個別知識や技能を統合的に活用し、学びの段階に応じた課題解決型学習を通じて、実際の地域へ「提案」を行う能力を実践的に身につけていきます。
- ・各専門分野の教員による少人数教育のゼミナールと、グループワークを重視した観光まちづくり演習で段階的・継続的に学び、4年間かけて必修6科目18単位、選択必修1科目2単位以上を履修します。
- ・観光まちづくり学部での学びの集大成として、3年から4年次にかけて卒業研究に取り組みます。



展開科目：観光まちづくりに関わる多様な専門領域の学び

- ・観光まちづくりに関わる多様な専門領域の知識を身につけます。
- ・Ⅰ類(社会)、Ⅱ類(資源)、Ⅲ類(政策・計画)、Ⅳ類(交流・産業)の4分野から構成しています。
- ・基礎期(1年後期～2年前期)には、4分野のバランスのとれた学びによって、観光や交流が地域にもたらす影響の幅広い理解と、観光まちづくりの方策に関する基礎的理解が図れるよう、細かな履修条件を設定しています。
- ・発展期(2年後期～4年)には、より深い社会構造や観光まちづくりの具体的でより専門的な方策への理解が図れるよう、学生自身の興味・関心に応じた選択的・主体的な履修を重視しています。
- ・2年前期までに26単位修得を目指し、卒業までには44単位以上を履修します。



Ⅰ類(社会)：地域を取り巻く社会の構造及び社会意識の実態や課題を学ぶ

- ・Ⅰ類(社会)の科目では、現代社会の構造と意識、未来への課題に関する理解を促し、大都市から地方農村までの異なる地域で生起する社会・文化現象を、歴史的背景を含む多様な社会的、産業的、政策的文脈の中で位置づけることができる能力を養います。
- ・基礎期には4科目を開講し、2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には6科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

【基礎期】

1年後期開講：文化社会学／コミュニケーション論

2年前期開講：地域と環境の社会学／グローバルゼーション論

コミュニケーション論（1年後期） \\PICK UP!\\

私たちは、常に誰かと何かについてコミュニケーションしている。日々実践しているこの「当たり前」な営みを、社会学的視点から捉え、主要概念、理論、歴史、具体例を学ぶことで、学問の対象として理解する。コミュニケーションは、自我と他者、個人と社会を結ぶ相互作用を生み出し、その様相はことば、文字、映像など、多様である。集団と組織における異なる文化や価値観を媒介することも重要な役割の一つである。

前半では、コミュニケーションの原理を理解するために基礎概念を整理する。後半では、メディア社会／大衆社会の中でコミュニケーションがどのように発展してきたかを学ぶ。現代社会を形づくってきた様々な専門分野の特徴を、歴史や具体例を通じて知ること、よりよいコミュニケーションのあり方を考える手がかりを理解する。

地域と環境の社会学（2年前期） \\PICK UP!\\

社会学の中でも地域社会(コミュニティ)の仕組みや、社会と環境との関わりに関連する領域である、農村社会学、地域社会学、環境社会学の基礎的な考え方について学び、これからの地域社会による環境(山、川、景観など)の保全と利用のあり方について考えていく。

その際、「生活」という視点を1つの軸とし、地域住民の生活との関わりに重点を置く学説や実践事例を中心に学び、理解する。こうした作業を通して、ボトムアップ型の社会を実現するためにどのような仕組みが必要なのか、具体的に考えていく。

\\PICK UP!\\

当該科目区分内からの一部科目の概要紹介です。詳細及び他の科目については、シラバスを参照してください。

【発展期】

2年後期開講：ジェンダーの社会学／都市とメディアの社会学

3年以降開講：観光社会学／コミュニティ論／NPOと市民社会／文化人類学

都市とメディアの社会学（2年後期） \\PICK UP!\\

社会学はコンテキスト＝文脈の学である。都市とメディアの社会学は、都会／都市を成り立たせ、変容させる歴史社会的文脈や、そうした都市の中でのメディア変容を文脈的に把握する力を育てる。

都市については、盛り場、ディズニーランド、オリンピック競技場、米軍基地などの空間を、メディアについては、印刷、電話、映画、テレビなどを具体的に取り上げていく。具体的な都市やメディアを素材として取り上げながら、それらにどう社会学的にアプローチしていくべきなのかを学ぶ。

NPOと市民社会（3年前期） \\PICK UP!\\

人々の社会的必要を満たすモノやサービスは、営利企業を中心とする市場経済によってのみ提供されているわけではない。多様な行政サービスを生み出す政府も、家事やケア等を行っている家族も、そして地域や特定の社会的属性を持った人々のニーズを満たすボランティアやNPO、協同組合などの非営利・協同セクターも、人々がよりよく生き、生活する上で重要な存在と言えよう。

本講義では、多様なニーズや特性を持った人々が、それぞれの特性を活かして生きていける共生社会を目指す上で、市場経済や行政、家族、そして非営利・協同セクターがいかなるメリットとデメリットを持っているかを理解し、上記セクター間のいかなる組み合わせや融合がそうした社会の構築に資するものとなり得るのか、NPO活動の事例分析を端緒として検討していく。

Ⅱ類(資源)：地域をとりまく歴史・文化、自然など地域固有の資源のあり方と保全管理を学ぶ

- ・Ⅱ類(資源)の科目では、歴史・文化、自然など地域固有の資源を見出し、その特質を支えてきた地域の営みとの関係を理解し、それらを保全し磨き上げるための制度や方策、技術を学びます。
- ・基礎期には5科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には7科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

【基礎期】

1 年後期開講：地域資源論(必修)／博物館概論

2 年前期開講：保全生態学概論／民俗学概論／都市建築史

地域資源論(1 年後期・必修)

\\PICK UP!//

地域のまちづくりや観光を支える資源には様々なものがある。気候や地形・地質、動植物、そして各時代の政治や経済の状況等と地域資源との関係性を捉えるとともに、これらの変化と合わせて人々の生活や生業が移り変わる中で地域資源がどのように変容・変質してきたのかを具体的に捉えながら、「地域性」をもたらし様々な要因と、それを具体的に表す事象との関係について理解を深める。

また、地域資源の継承が求められている社会的背景や各地での取り組みの動向についても学ぶとともに、関係する制度・事業についての基礎知識を習得する。

民俗学概論(2 年前期)

\\PICK UP!//

私たちの周りには、地域や家によって受け継がれてきた様々な民俗文化がある。こうした、暮らしに根ざした身近な文化に焦点をあてることで、自らの知見と照らし合わせつつ、日本人が持つ価値観とその方向性について考える。それが、民俗学が内省の学とも呼ばれる所以である。

民俗学の概説を通じて、その基礎的な知識を得るとともに、基本的な民俗の捉え方を養う。先人たちがどのような生活をおくり、どのような「生きがい」を抱いてきたのかを認識し、ひいては日本人の考え方や行動のあり方を見つめ直す。

【発展期】

2 年後期開講：風景計画論／レクリエーション計画論／地域文化創造論／地域遺産論

3 年以降開講：自然/環境保護行政概論／文化行政・文化財行政概論／世界遺産論

風景計画論(2 年後期)

\\PICK UP!//

風景あるいは景観を計画・設計するという観点に立脚し、人間を取り巻く視覚像である風景を分析的に把握し、予測、評価する方法について学ぶ。風景・景観認識のメカニズム、そして分析から評価、計画に至るプロセスや手法に関する講義を通して、多様かつ複合的な視点をいかに整理し、客観的な分析と評価の対象とするかについて学ぶ。また、風景計画・景観設計の実態に触れながら、人々の生活と風景との関わりについても理解する。

風景の計画、形成に当たっては踏まえるべき原則と、風景に対する時代の志向や価値観、そして地域ならではの環境との関わり方に対する配慮が必要である。地域の歴史的、社会的、文化的背景と、形成される風景との関係について考える。

文化行政・文化財行政概論(3 年前期)

\\PICK UP!//

本講義では、文化財を大きく有形の文化財(不動産、動産)と無形の文化財に大別しながらそれぞれの成り立ちと変遷、保護の仕組みについて概観する。

また、破壊から守るために社会の仕組みとは切り離されて保護されてきた有形文化財の現在の課題とは何か、社会変容の中で消えゆく人のわざや慣習はどのように残し得るか、文化的景観や民俗文化財等、保護の対象が人々の生活に近いものとなるほど、有形と無形、不動産と動産を截然とは区分できないのは何故か等、守るものの特質や性質によって異なる保護の考え方を理解し、比較を通しながら文化財と地域社会との関係を考える。

Ⅲ類(政策・計画)：地域の空間構造を踏まえた将来像の構想や働きかけに有効な具体的政策及び計画を学ぶ

- ・Ⅲ類(政策・計画)の科目では、公共政策や工学等のまちづくりに関連の深い分野を中心に、地域の将来像を構想し実装する政策・計画に関する知識や能力を身につけます。
- ・基礎期には5科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には9科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

【基礎期】

1 年後期開講：公共政策概論(必修)

2 年前期開講：地方自治概論／地域デザイン論／国土・都市計画論／都市と地域の交通

公共政策概論(1 年後期・必修)

\\PICK UP!//

地域をとりまく様々な政策の中でも、国や地方自治体における公共政策の根幹を理解できるよう、体系や制度についてまず学んでいく。一方で国民・住民に主権があり、政策形成にも主権者の多様な参加が試みられている。そこで、実際の公共政策形成プロセスや制度の運用、地域づくりにおいて、また主権者自体が試みる政策形成や事業展開の事例も順にみていく。そうしたさまざまな先進事例を検討することの中から、グローバル化の時代も背景とした、これからの公共政策のあり方について考える。

地域デザイン論(2 年前期)

\\PICK UP!//

有限な地域空間において、住民と観光客をはじめとする多様な主体の幸せな共存を目指して、まずは、建物から敷地、街区、地区、都市、広域までの多層的スケールで空間的・社会的デザインとプロセスデザインを考えるための基本的な見方を学ぶ。

そして、地域を取り巻く環境も人々の意識も激動期にある現代において、行政の縦割りや広域化等の弊害を超えて地に足の着いた地域主体のデザインを行うためのアプローチと技術の基礎を習得する。

【発展期】

2 年後期開講：行財政概論／まちづくり論／農山漁村論

3 年以降開講：住民参加と合意形成／都市保全論／交通計画／地域減災論／リノベーション論／アートと地域振興

農山漁村論(2 年後期)

\\PICK UP!//

農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落(むら)の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探る。

また、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤(とりわけ農山村地域の主要産業である第1次産業)への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。漁村についても、適宜、関連する論点を扱う。

地域減災論(3 年前期)

\\PICK UP!//

日本は自然災害の多い地域であり、地震、津波、火山噴火、台風、豪雨などによって大きな被害が発生している。このような自然災害から市民の生活を守り安心して暮らしていけるように、日常時から防災・減災まちづくりを推し進めることは重要である。また、このような取り組みは、一般市街地だけではなく、多くの観光客が滞在している観光地においても同様に重要である。

地域で求められる防災・減災・復興まちづくりに関して、防災・減災まちづくりの仕組み、一般市街地と観光地における防災活動、災害を引き起こす自然現象と発生する被害、過去の代表的な自然災害と復興まちづくり、新たな取り組みとしての地域協働型の事前復興まちづくり、たまプラーザキャンパスと防災・減災まちづくり、について学ぶ。



Ⅳ類(交流・産業)：地域を主体とした域内外の交流の在り方とその関連産業がもたらす経済効果を学ぶ

- ・Ⅳ類(交流・産業)の科目では、地域を主体とした域内外の交流のあり方や、そうした交流を通じて地域に経済効果をもたらす具体的な方策及び関連産業の枠組みについて学びます。
- ・基礎期には4科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には10科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

【基礎期】

1 年後期開講：観光学概論(必修)／観光マーケティング

2 年前期開講：観光政策・計画論／観光事業論

観光学概論(1 年後期・必修)



観光の歴史的発展を概観して時代とともに観光をめぐる環境や状況が変遷することを理解する。その上で今日の観光という事象を取り巻く様々な主体について、観光客の視点に加え、観光事業者や観光推進組織、行政など観光客を受け入れる地域側の視点、さらには観光政策や観光関連法規、観光計画といった政策実現の視点、そして国際的な観光を俯瞰する視点から広く見渡すことによって、今後4年間の観光まちづくりに関する学びの基礎を身につける。

観光事業論(2 年前期)



観光産業は交通、宿泊、旅行会社、飲食、テーマパークなど多様な業種から構成され、世界中で約3億人が従事し、各事業は雇用創出など地域経済にも大きな貢献をしている。昨今、デジタルエコノミーの進展やSDGsへの対応など、社会的な変化や要請を背景に消費者が観光、旅行に求めるニーズも変化し、観光事業には事業変革による価値創出が求められている。

このような背景のもと、観光事業別にその経営の特徴や課題を理解し、中長期的な視点からあるべき姿を把握する。観光事業の役割や意義を理解し、地域の持続的な発展のためにどのような貢献ができるか考える力を身につける。

【発展期】

2 年後期開講：観光行動論／ホスピタリティ・マネジメント論／旅行産業論／宿泊産業論／地域の観光情報メディア

3 年以降開講：観光地経営論／観光食マネジメント論／世界の観光政策／観光経済論／田園回帰論

地域の観光情報メディア(2 年後期)



メディアの特性を制作プロセスと併せて学び、学生に身近なSNSが地域の観光情報メディアとしてどのように活用されているかについて議論する。

そして、地域における観光戦略の要としての情報発信の実態を把握し、課題を抽出し、情報発信者の立場に立って情報発信のあるべき姿を学ぶ。同時に、自治体のアンテナショップなどリアルな場が担っている役割や今後の可能性についても学ぶ。

田園回帰論(3 年前期)



都市から農山漁村への移住という物理的移動だけでなく、都市住民が地方へ向けるまなざしの変化を含め「田園回帰」と呼ばれるようになってきた。一方、日本全体の人口減を受けて始まった地方創生施策の中で、都会からの移住者獲得に動く自治体が増えている。これらの田園回帰の動きと、プロセスとしての「関係人口」と呼ばれる多様な関わり方や関わりしるづくりについて全国の取組みから学び、特に「なりわい」「住まい」「コミュニティ」という具体的な課題を通じ、物事を多面的に考える力を養う。

トピックス科目：観光まちづくりの実践的な話題にふれる

トピックス科目は、観光まちづくりの現場や実務に近い分野で活躍している専門家を講師として招き、実践的な話題に触れる科目です。学習意欲の向上や将来の進路を考える契機として活用してください。

1 年次開講：経営学概論

2 年次開講：地域ブランディング論／運輸・観光実践論／ソーシャル・イノベーション

3 年次開講：観光まちづくりインターンシップ(通年)／不動産投資論／観光危機管理論
文化芸術政策論

関連科目：観光まちづくりに関連するより幅広い分野の学び

観光まちづくりを学ぶ上で関連する他の専門分野や、本学独自の神道文化と地域形成について理解を深めるための科目です。学芸員の資格取得を目指す学生のため、博物館学芸員課程もあります。

1 年次開講：哲学・倫理学／地理学概論

2 年次開講：神道と環境Ⅰ／神社ネットワーク論Ⅰ／地域と都市の経済／観光心理学

【博物館学芸員課程の科目】

・博物館学芸員課程の科目は博物館法施行規則第1条によって定められていて、博物館の学芸員資格取得のために必要な知識や技術を習得するため、以下10科目19単位を全て修得する必要があります。

・「博物館概論」以外の9科目は、卒業要件に含めない科目です。

・受講に際しては、所定の選考に通過し、資格課程費を納入する必要があります。

1 年次開講：博物館概論 ※本学部では展開科目基礎(Ⅱ類・資源)に位置付けている。

2 年次開講：博物館資料論／生涯学習概論／博物館教育論／博物館資料保存論

3 年次開講：博物館展示論／博物館情報・メディア論／博物館経営論／博物館実習A

4 年次開講：博物館実習B(1 単位)

履修モデル

観光まちづくり学部では、観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤とした上で、学生の興味・関心や希望する進路に応じた履修が組めるように、以下の6つの履修モデルを作成しています。

これは、いずれかに合致させなければならないということではありません。ひとり一人の学生が、自身の興味・関心や進路を視野に入れて、主体的に科目を選択することが、なによりも大切です。

履修モデルA：社会や生活の調査・分析から観光まちづくりを学びたい学生 p.18

履修モデルB：歴史・文化の保存と活用から観光まちづくりを学びたい学生 p.19

履修モデルC：自然・環境の保護と利用から観光まちづくりを学びたい学生 p.20

履修モデルD：公共政策から観光まちづくりを学びたい学生 p.21

履修モデルE：空間づくり・計画づくりから観光まちづくりを学びたい学生 p.22

履修モデルF：観光関連産業での事業・経営から観光まちづくりを学びたい学生 p.23



履修モデル

A

社会や生活の調査・分析から
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅰ類(社会)、メソッド科目、展開科目Ⅲ類(政策・計画)を積極的に履修します。
- ◆地域を取り巻く社会や生活の分析と計画や政策の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- ◆進路として、公務員、コンサルタント、ジャーナリストや、NPO、NGO、出版、放送、広告、商社、IT、金融など幅広い分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 情報科学入門 政治と社会参加(NPO)		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	データサイエンス 質的調査法	プロダクトデザイン(地域と杉) 多変量解析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開 ・ 基礎	〔Ⅰ〕文化社会学 コミュニケーション論 〔Ⅱ〕地域資源論 博物館概論 〔Ⅲ〕公共政策概論 〔Ⅳ〕観光学概論 観光マーケティング	〔Ⅰ〕地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 〔Ⅱ〕都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論 〔Ⅲ〕地域デザイン論 都市と地域の交通 〔Ⅳ〕観光事業論		
展開 ・ 発展		〔Ⅰ〕都市とメディアの社会学	〔Ⅰ〕ジェンダーの社会学 NPOと市民社会 観光社会学 文化人類学 〔Ⅱ〕地域文化創造論 風景計画論 文化行政・文化財行政概論 〔Ⅲ〕まちづくり論 農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 リノベーション論 〔Ⅳ〕地域の観光情報メディア	
トピックス		ソーシャル・イノベーション		
関連	哲学・倫理学			
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

B

歴史・文化の保存と活用から
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅱ類(資源)の科目を中心に、歴史・文化を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、必要に応じて博物館学芸員課程を履修します。
- ◆歴史・文化の保存と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆進路として、歴史・文化の保存と活用に直接関与する博物館等の学芸員や職員、公務員、歴史・文化を有する地域の観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、歴史・文化を活用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間 比較文化論Ⅰ		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	プロダクトデザイン(地域と杉)	質的調査法	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開 ・ 基礎	〔Ⅰ〕文化社会学 コミュニケーション論 〔Ⅱ〕地域資源論 博物館概論 〔Ⅲ〕公共政策概論 〔Ⅳ〕観光学概論 観光マーケティング	〔Ⅰ〕地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 〔Ⅱ〕都市建築史 民俗学概論 〔Ⅲ〕地方自治概論 地域デザイン論 〔Ⅳ〕観光政策・計画論 観光事業論		
展開 ・ 発展		〔Ⅱ〕地域遺産論 風景計画論 〔Ⅲ〕まちづくり論 〔Ⅳ〕地域の観光情報メディア	〔Ⅰ〕ジェンダーの社会学 文化人類学 〔Ⅱ〕地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 世界遺産論 〔Ⅲ〕行財政概論 都市保全論 リノベーション論 アートと地域振興 〔Ⅳ〕観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論	
関連		博物館学芸員課程(17)		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位(博物館学芸員課程の単位は含まない)

履修モデル

C

自然・環境の保護と利用から
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目からⅡ類(資源)の科目を中心に、自然・環境を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、関連科目も履修します。
- ◆自然・環境の保護と利用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆進路として、自然・環境の保護と利用に直接関与する公務員や環境関連組織、観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、自然・環境を利用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法	地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 [Ⅱ]民俗学概論 保全生態学概論 [Ⅲ]国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅱ]風景計画論 レクリエーション 計画論 [Ⅲ]行財政概論 まちづくり論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 観光社会学 [Ⅱ]地域遺産論 文化行政・文化財行政概論 自然/環境保護行政概論 [Ⅲ]農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 観光地経営論 観光食マネジメント論 観光経済論 田園回帰論	
トピックス			観光まちづくりインターンシップ	
関連	地理学概論	神社ネットワーク論Ⅰ		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

D

公共政策から
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅲ類(政策・計画)の科目を特に多く履修しながら、メソッド科目、トピックス科目を多く履修し、政策や計画の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- ◆特に、3年次以降は、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方も兼ね備えていきます。
- ◆進路として、公務員、コンサルタント、NPO、NGO等の職員や、出版、放送、広告の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 法学(日本国憲法) 行政と市民生活 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 日本文化を知る		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	パブリックデザイン(地域と公共空間) 質的調査法	多変量解析	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 [Ⅲ]地方自治概論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅰ]ジェンダーの社会学 [Ⅱ]風景計画論 [Ⅲ]行財政概論 農山漁村論	[Ⅰ]コミュニティ論 [Ⅱ]地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 [Ⅲ]まちづくり論 都市保全論 住民参加と合意形成 地域減災論 交通計画 アートと地域振興 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論 観光まちづくりインターンシップ	
関連		地域と都市の経済		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

E

空間づくり・計画づくりから
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆メソッド科目とトピックス科目を積極的に履修しながら、展開科目Ⅱ類(資源)とⅢ類(政策・計画)の科目、関連科目も履修します。
- ◆空間づくりや計画づくりにつなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆2年次以降、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方を兼ね備えていきます。
- ◆進路として、宿泊業、建設業、不動産業、運輸交通業の分野や、観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、公務員として活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 地球環境と人間 法と社会参加 日本の経済		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎 プログラミングと数学基礎	データサイエンス	パブリックデザイン (地域と公共空間) 地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開 ・ 基礎	Ⅰコミュニケーション論 Ⅱ地域資源論 博物館概論 Ⅲ公共政策概論 Ⅳ観光学概論 観光マーケティング	Ⅰグローバリゼーション論 Ⅱ都市建築史 保全生態学概論 Ⅲ地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 Ⅳ観光政策・計画論		
展開 ・ 発展		Ⅱ風景計画論 Ⅳ観光行動論 宿泊産業論	Ⅰ都市とメディアの社会学 Ⅱレクリエーション計画論 自然/環境保護行政概論 世界遺産論 Ⅲまちづくり論 都市保全論 交通計画 地域減災論 リノベーション論 Ⅳ観光地経営論	
トピックス		地域ブランディング論	不動産投資論 観光危機管理論	
関連	地理学概論		神社ネットワーク論Ⅰ	
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

F

観光関連産業での事業・経営から
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅳ類(交流・産業)の科目を積極的に履修し、地域主体の交流・産業を創出するための能力を身につけます。
- ◆1年次からトピックス科目を履修し、実務的なものの見方を兼ね備えていきます。2年次には関連科目も履修します。
- ◆進路として、宿泊業、旅行業、地域の観光協会・DMO等の観光産業及び、運輸交通業、起業、商社、IT、金融、広告等の観光関連部門で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 情報科学入門 経済経営数学入門		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法		
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開 ・ 基礎	Ⅰコミュニケーション論 Ⅱ地域資源論 博物館概論 Ⅲ公共政策概論 Ⅳ観光学概論 観光マーケティング	Ⅰグローバリゼーション論 Ⅱ保全生態学概論 Ⅲ地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 Ⅳ観光政策・計画論 観光事業論		
展開 ・ 発展		Ⅳ観光行動論 ホスピタリティ・マネジメント論 旅行産業論	Ⅰ都市とメディアの社会学 観光社会学 Ⅱ地域遺産論 地域文化創造論 Ⅲ農山漁村論 地域減災論 アートと地域振興 Ⅳ宿泊産業論 観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 観光経済論 田園回帰論	
トピックス	経営学概論		運輸・観光実践論 観光まちづくりインターンシップ	
関連		地域と都市の経済 観光心理学		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

教員の紹介

観光まちづくりに関わるさまざまな分野で研究実績や現場経験を豊富にもつ教員陣が、理論と実践の両面から、地域を支え、地域に貢献していくことのできる人材を育てていきます。

観光まちづくり学部教員の
“印象にのこるまち”
を紹介します

井門 隆夫 教授 IKADO, Takao

専門分野 観光イノベーション、観光経営論

担当科目 観光マーケティング

印象にのこるまち ベトナム・ダナン

毎年、学生とともに出かけているベトナム中部のリゾート都市。美しいビーチあり、ヌックナム(ベトナムの調味料) 香る雑多な市場あり、屋台あり、おしゃれなバーありと、1つの町であらゆる要素を楽しめます。世界遺産の町ホイアンへも30分。小さな町には学生たちもすぐ馴染み、わが町のように屋台を食べ歩くようになります。



石本 東生 教授 ISHIMOTO, Tohsei

専門分野 文化観光、南欧諸国の観光政策

担当科目 世界の観光政策

印象にのこるまち ギリシャ・エーゲ海の
サントリーニ島

エーゲ海のサントリーニ島。そこは今から3500年ほど前に、島中央部に位置した火山が大爆発して陥没、大カルデラ地形が形成されました。そしてその断崖絶壁の上部に、真白の家々が立ち並んでいます。とりわけ夏のシーズンは、紺碧の海と空、そして白い家並みが得も言われぬ美しさ。加えて、歴史遺産も多く興味をそそります。



浅野 聡 教授 ASANO, Satoshi

専門分野 都市計画、景観計画、歴史的環境保全計画、防災・復興まちづくり

担当科目 都市建築史

印象にのこるまち 岐阜県関ヶ原古戦場

多くの日本人が学校で教わる天下分け目の関ヶ原の戦い。石田三成率いる西軍と徳川家康率いる東軍による戦いで、両軍合わせて15万人が激突しました。15万人の野外イベントを企画するのは大変ですが、関ヶ原はどのような場所なのでしょう。歴史探偵になった気持ちで、謎の多い広大なエリアを探索してみてください。



石垣 悟 准教授 ISHIGAKI, Satoru

専門分野 民俗学、博物館学、文化財保護論

担当科目 博物館概論

印象にのこるまち 愛媛県西宇和郡伊方町

佐田岬半島の小さなまちです。原発を抱え、過疎も進んでいます。漁業やみかん栽培などを生業とし、盆や正月、祭りのときは浦々も活気づきます。特に多くの人が帰省する盆は、ご先祖様と交流する独特な民俗行事が多く、一帯は不思議な雰囲気になります。地元の博物館でもそうしたまちの姿を感じ取ることができます。



石山 千代 准教授 ISHIYAMA, Chiyo

専門分野 地域デザイン、歴史的環境保全、観光まちづくり、都市計画

担当科目 地域デザイン論

印象にのこるまち サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路沿いの道・集落・都市(スペイン北部)

約800kmにわたる巡礼路を自分ならではのスタイルで歩くため・支えるため、世界中から多くの人々が訪れています。初めて世界遺産に登録された道なので沿道風景の美しさも魅力ですが、“Buen Camino!(よい巡礼を!)”という挨拶と笑顔が飛び交い、道案内の可愛らしい矢印があちらこちらで歓迎してくれて、目にも足にも心にも優しい“まち”と“みち”です。



梅川 智也 教授 UMEKAWA, Tomoya

専門分野 観光政策、観光計画、観光地経営、観光まちづくり

担当科目 観光地経営論

印象にのこるまち スペイン・サンセバスチャン(バスク地方)

世界屈指の“美食の街”と言われる人口18万人ほどの歴史あるリゾート都市。欧州文化首都が開催された年に行ったのですが、まさに虜になるほど印象に残るまちでした。一口サイズに作られたおいしいピンチョスとやや酸味のあるバスク独特の白ワイン・チャコリの相性は抜群でした。生きていて良かったと幸せを感じさせてくれるまち、それがサンセバスチャンです。そんなまちが日本にもあるといいですね。



嵩 和雄 准教授 KASAMI, Kazuo

専門分野 地域計画論

担当科目 田園回帰論

印象にのこるまち 熊本県阿蘇郡小国町

大学院時代の調査で訪れ、そのまま移住し約9年間暮らしました。各種都市農村交流事業を企画・実践し東京に戻りましたが、顔が見えるつながりはまだ続いていて、家族ぐるみの付き合いをしています。最近ではこのような地方との関わりを持つ人を「関係人口」と呼びますが、観光客や学生でも地域づくりに関わる場を作り上げてきた、オープンなまちです。



児玉 千絵 専任講師 KODAMA, Chie

専門分野 都市計画、都市デザイン、ストックマネジメント

担当科目 地理空間情報分析

印象にのこるまち 島根県松江市恵曇

島根半島四十二浦の一つ。驚くほど水面に近い佐陀川の流れに誘われて歩くと、漁業集落らしい路地沿いの親密な町並みや、舟運のでかつてのにぎわいを思わせる立派な屋根瓦を持つ家々、厳かな神社、清らかな浜に出会えます。美しい町が残る一方、原発が立地し、避難道路整備や経済的自立などの課題にも向き合っている町です。



楓 千里 教授 KAEDE, Chisato

専門分野 地域の観光情報メディア

担当科目 地域の観光情報メディア

印象にのこるまち 山形県東置賜郡川西町

『日本奥地紀行』の著者、イザベラ・バードを顕彰する「アルカディアの塔」が立つ川西町は、作家井上ひさしの生誕の地。町立図書館に併設する「遅筆堂文庫」には井上ひさしの蔵書約22万点を、付箋や書き込みがそのままの状態で所蔵し、希望者は閲覧できます。この個性的な図書館を中心に、旅人を快く迎え入れてくれる町です。



金 今善 准教授 KIM, Guemsun

専門分野 地方自治論、地域政策論、住民参加と合意形成

担当科目 地方自治概論

印象にのこるまち 東京都新宿区新大久保

9人にひとりが外国人である新宿区では、多くの外国人がそれぞれのスタイルで生活を営んでいます。特に、JR新宿駅から新大久保駅方面に通って歩くと、コリアンタウンとして知られている大久保地区の国際化・多国籍化に至る所で感じます。また外国人は新大久保に「住み」、日本人は新大久保に「観光」しに来るような、不思議な気持ちにもなります。



小林 裕和 教授 KOBAYASHI, Hirokazu

専門分野 観光イノベーション、DMC/DMO、観光DX

担当科目 観光事業論

印象にのこるまち フランス・ベシュレル

フランス・ブルターニュ地方にあるベシュレルは「la Cité du Livre=本のまち」として知られ、中世の歴史が残る人口700人弱の小さなまちです。本を活用したまちづくりを1988年頃から始め、12の古本屋さんやギャラリーやアトリエが点在。古本屋のはしごに疲れたら本場のガレットが待っています。優しい時の流れを感じる大好きなまちです。



小林 稔 教授 KOBAYASHI, Minoru

専門分野 民俗学、文化財学

担当科目 民俗学概論

印象にのこるまち 富山県砺波市

砺波平野の散居村集落。カイニョと呼ばれる屋敷林、そして、それに包まれたアズマダチと称する様式家屋。一步入ると別世界が……。全体としても個々としても、落ち着きや美しさを感じられます。



塩谷 英生 教授 SHIOYA, Hideo

専門分野 観光経済、旅行市場、観光統計、観光財源

担当科目 統計分析の基礎

印象にのこるまち 広島県廿日市市宮島

縁あって宮島に何度か渡りましたが、歩くたびに歴史の深みを体感します。この島は、世界文化遺産で、瀬戸内海国立公園に属し、最近は伝建地区の指定も受けました。制約もありますが、制度を賢く活かしているとも言えます。島民皆が厳島神社の氏子でもあり、鷹揚な言葉遣いの中にふと中世の人の面差しを感じる時があります。



下村 彰男 教授 SHIMOMURA, Akio

専門分野 造園学

担当科目 風景計画論

印象にのこるまち 宮崎県東臼杵郡諸塚村

陽のあたる尾根に立地する小さな集落とその周りの畑地、そして背景に広がる林業と椎茸栽培を象徴するスギやクヌギのモザイク林。厳しいながらも、古くから自然に適應して暮らしてきた人々の営みに思い馳せることのできる風景です。このように暮らしが一望できる風景を有することも、まちの魅力の一つではないでしょうか。



椎原 晶子 教授 SHIIHARA, Akiko

専門分野 まちづくり、地域アート、建築・生業再生、エリアリノベーション

担当科目 アートと地域振興

印象にのこるまち 東京都台東区谷中

谷中界隈は、日本の首都東京の中にあって、太古からの自然と遺跡、江戸時代以来の寺町の町割りや家並み、人のつながりが生きるまちです。石屋や畳屋、酒屋などの老舗と町内の活動に重ねて、若い人たちが住み、新しい店やアート活動も生まれます。人が住み合い続けるために必要なことを、さまざまに体験できるのが魅力です。



下間 久美子 教授 SHIMOTSUMA, Kumiko

専門分野 文化財、都市保全、景観保全

担当科目 地域遺産論

印象にのこるまち パリ、ロンドン、ローマ

純粋に美しさという点で印象的なのはパリで、特に夜のコンコルド広場が忘れられません。新旧のダイナミズムという点で印象にのこっているのはロンドンです。しかし、総じて印象にのこるのは、悠久の歴史と人々の大らかさが、優しさとユーモアとカオスとなって表れ出るとともに、食を愛してやまないまち、ローマです。



清野 隆 准教授 SEINO, Takashi

専門分野 コミュニティ・デザイン

担当科目 まちづくり論

印象にのこるまち イタリア・ボローニャ

ヨーロッパ最古の大学が設立されたまちで、自由と改革の気風が強く、社会を改善する新しい試みがたくさん見られます。ミートソースをはじめとする食文化の豊かさ、街路に面してアーケードが張り巡らされた古い町並みもボローニャの魅力です。2021年に世界文化遺産に登録されました。1年間留学した思い出のまちです。



十代田 朗 教授 SOSHIRODA, Akira

専門分野 都市・地域・国土計画、観光計画、観光地発達史

担当科目 国土都市計画論

印象にのこるまち オーストリア・インスブルック

唯一暮らしたことがある海外の都市。ウィーンなどに次ぐオーストリア第4の人口規模です。3番目の都市までは美しい街並みを誇り世界遺産です。インスブルックは街並みでは見劣りしますが、印象に残ったのはチロル人として伝統文化を大切にする心です。目に見えるものだけでなく見えないものも住む人の誇りとなるのです。



仲野 潤一 専任講師 NAKANO, Junichi

専門分野 まちあるきへのAR/VR等のデジタルメディア活用・インタラクティブコンテンツ開発

担当科目 データサイエンス

印象にのこるまち 東京

東京は、まちの代謝が速い一方で、歴史が感じられるスポットも多く残っているので、徒歩や自転車で散策すると、常に新しい発見があります。常に時空間的なダイナミズムの感じられる知的刺激があり、ヒューマンスケールがどこまでも続くような、調べ尽くすことのできない、興味深い都市だと思います。



西村 幸夫 教授 NISHIMURA, Yukio

専門分野 都市計画

担当科目 まちづくりと観光

印象にのこるまち ブータン王国

文化財保護の法律の策定と集落調査の方法の支援のためにここ10年くらい通っています。国内のすべての建物はブータンの様式に沿っている必要があり、すべて5階建て以下です。公務員の公的なスタイルは日本の和服に似たゴと呼ばれるものです。つい50年前まで鎖国していた国なので、奇跡的に文化や伝統が守られています。



大門 創 准教授 DAIMON, Hajime

専門分野 都市計画、交通計画

担当科目 都市と地域の交通

印象にのこるまち フランス・ストラスブール

ストラスブールは、欧州評議会本部があるまちであり、人と環境に優しいまちづくりに取り組んでいます。もともと幹線道路でまちの中心部が分断されていたのですが、20年ほどかけて自動車流入を抑制し、人・自転車・トラム(路面電車)が中心のまちになり、にぎわいを取り戻しました。日本でも同様の取り組みが進められています。



南雲 勝志 教授 NAGUMO, Katsushi

専門分野 まちづくりにおけるデザイン、杉の活用

担当科目 パブリックデザイン(地域と公共空間)

印象にのこるまち 島根県大田市温泉津温泉

世界遺産石見銀山の積出港として栄え、重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)に選定されている情緒的な町並み、体の芯まで浸みる熱すぎる温泉。そして北前船の寄港地でもあった温泉津港は涙が出るほど美しい。加えて暮らす人々はとても人情味があって、ここで時間を過ごしていると忘れかけていた大切なものを思い出させてくれる魅力的なまちです。



河 炅珍 准教授 HA, Kyungjin

専門分野 メディア、コミュニケーション、パブリック・リレーションズ(PR)

担当科目 コミュニケーション論

印象にのこるまち 広島県広島市

人類史上最初の原子爆弾が投下された都市です。戦前の軍都から、戦後は国際的平和運動の拠点に生まれ変わりました。広島は、熱烈なカープファンの聖地でもあります。赤いローソンで有名なカープロードは、試合のある日は真っ赤なユニフォームを身にまとい、地元チームを応援する人たちがいっぱいになります。



潘 梦斐 助教 PAN, Mengfei

専門分野 文化社会学、都市社会学、博物館学、アジア近代美術
担当科目 文化社会学

印象にのこるまち 中国・雲南省大理

「老後はここで過ごしたい」と思ったのは、20代前半に訪れていた中国雲南省の大理です。南シルクロード・茶馬古道の要衝で、石畳の古い町並みが残っており、市場も賑やかでした。「洱海」という淡水湖の水は澄み透り、遠山、野の草花、仏閣が映り込み、時間がゆったりと流れていると感じました。



堀木 美告 教授 HORIKI, Mitsugu

専門分野 造園学、観光計画、観光資源管理
担当科目 保全生態学概論

印象にのこるまち 松本盆地、甲府盆地

私の印象に残る“まち”の第一条件はヒトと自然との付き合い方やその歴史が表れる水辺空間の豊かさです。あわせて山岳への眺望にも惹かれます。これらのことは海に近い平野部で暮らしてきた影響かもしれません。松本盆地と甲府盆地、どちらも扇状地由来の水辺の環境と美しい山々の眺望に恵まれた、居心地よい“まち”だと感じます。



楊 惠亘 専任講師 YANG, Hui-Hsuan

専門分野 都市デザイン、都市保全、まちづくり、ランドスケープデザイン
担当科目 都市保全論

印象にのこるまち 富山県富山市八尾町

私が来日してから初めてまちづくり活動を行った町です。石垣の上に並んでいた建築群の風景や、日本の道100選に選ばれた諏訪町の美しい町並みや、おわら風の盆を堪能できたほか、住民の方々がとても温かく接してくれたことで、大いに充実した4年間を過ごすことができました。皆さんにも是非一度訪ねてみてほしい町です。



藤岡 麻理子 准教授 FUJIOKA, Mariko

専門分野 文化遺産学、歴史的環境保全
担当科目 世界遺産論

印象にのこるまち ベトナム・ホーチミン

卒業旅行で訪れた初めてのアジアの大都市の夜、湧き出るような都市と人々のエネルギーに魅せられ、まさに熱に浮かされたようにほっつき歩きました。低成長下の東京にはない何かを感じたのでしょう。数年前、十数年ぶりに訪れると開発がぐんと進んでいましたが、路地は変わらず生活の場で地域の多様な営みがありました。



松本 貴文 准教授 MATSUMOTO, Takafumi

専門分野 農村社会学
担当科目 社会調査法入門

印象にのこるまち 山口県下関市

下関市にはさまざまな魅力がありますが、私のお気に入りには海に見える風景です。関門海峡を通る船をぼんやりと眺めているだけでも心が癒されます。市北部にある角島もお勧めです。コバルトブルーの海にかかる角島大橋が有名ですが、角島灯台の展望台からの眺めも格別です。



米田 誠司 教授 YONEDA, Seiji

専門分野 公共政策、観光まちづくり
担当科目 公共政策概論

印象にのこるまち 愛媛県喜多郡内子町

人口約1万6千人の内子町は、江戸時代後期から明治時代に木蠟生産で栄え、八日市護国重伝建地区は町並み保存で面影を今に残し、国重要文化財内子座も100年を経て健在です。農村集落の自然環境、景観などの地域資源保全に住民が自治で取り組む村並み保存や、人と山や自然との共生を求める山並み保存にも取り組んでいます。



地域マネジメント研究センターとは

観光まちづくり学部では、学部設置と同時に学部の附属組織として「地域マネジメント研究センター(Community Management Institute)」を開設します。CMIを略称として使用しますので、ぜひ覚えておいてください。若木21の1階にスペースを設けました。CMIは、“観光まちづくり学部と地域・社会を結び、両者の発展に寄与し、観光を軸とした持続可能な魅力ある地域づくりに貢献する”ことを目的に、①研究推進・支援機能、②地域連携機能、③企画・運営機能の3つの機能を有します。

一つ目の研究推進・支援機能は、地方自治体や公的団体等との共同研究の推進や国内外の観光まちづくりに関する情報拠点として、情報収集と情報発信の役割を果たします。特に、本学部の学びに関する図書や観光まちづくりに関する図書・雑誌、さらに包括連携協定を結んだ地域の図書・資料などを集めた「観光まちづくりライブラリー」(P31参照)は、とてもユニークな空間で、5月中旬に開設される予定です。「渋谷図書館」・「たまプラーザ図書館」とこの「観光まちづくりライブラリー」を上手にを使って、観光まちづくりの学びを深めてください。

二つ目の地域連携機能は、本学と包括連携協定を結ぶ地域をはじめとした、魅力ある観光まちづくりを実践している地域や団体などと学生・教員との交流を図る役割を果たします。現在、千葉県香取市佐原地区、岐阜県高山市、三重県鳥羽市、愛媛県内子町、大分県由布市などを包括連携協定を結ぶ候補として、準備が進められています。他にもいくつかの地域との連携協議が始まっていますので、今後さまざまな地域との連携が実現し、皆さんがその地域を学びのフィールドとして訪問し、交流を深める機会もあると考えてください。

三つ目の企画・運営機能では、各地の観光まちづくりに携わっている専門家などを招いた「観光まちづくり」フォーラムや「観光まちづくり」カフェを定期的に開催します。これまで実施したイベントの様子を、P32~33で紹介しています。

さらに、各地の観光まちづくりの取り組みやトピックス、本学部の取り組みを紹介する冊子『観光まちづくり』を年1回発行し、地域の方々とのコミュニケーションツールとして活用します。

観光まちづくり学部の特色であるCMIに関心を持ち、「観光まちづくりライブラリー」に足を運んでみてください。



包括連携協定
候補地域

〈千葉県香取市佐原地区〉



小野川沿いに続く重伝建地区の町並み

〈岐阜県高山市〉



上三之町の重伝建地区の町並み
(飛騨高山観光公式サイトより)

〈三重県鳥羽市〉



島々への定期船が発着する
鳥羽マリンターミナル

〈愛媛県内子町〉



1916(大正5)年に創建された内子座
(内子町公式観光サイト「内子さんぽ」(HP)より)

〈大分県由布市〉



由布院温泉の湯の坪街道
(由布市(HP)フォトアルバムより)

「観光まちづくりライブラリー」

5月中旬オープン!

「観光まちづくりライブラリー」では、本学部の学びに関する図書及び観光まちづくりに関する専門図書・資料や情報の収集・提供・保存を行います。蔵書は、「渋谷図書館」・「たまプラーザ図書館」と連携して収集し、排架*場所も決めていきます。司書資格を有する研究員をはじめとするスタッフが運営し、皆さんからのレファレンスにも対応します。

最新の図書・雑誌の紹介、モニターやパネルなどによる包括連携協定を結んだ地域や観光まちづくりに関する取り組みの紹介など、情報発信も行いますので、注目してください。

館内の大きなテーブルと椅子、一部の書棚は、包括連携協定を結ぶ予定の岐阜県高山市の飛騨家具メーカーの製品です。地場産業を知ることが、観光まちづくりの大切な学びです。無垢の木に触れながら、飛騨高山への興味を深めてください。

<蔵書と独自分類>

(1)蔵書

観光まちづくり学部の教育に関わる専門書(各分野の基本書や全集、シラバス教材や学部教員の著書など)約3000冊を排架します。

雑誌架には、専門雑誌・学術誌など約140タイトルを排架します。

書棚には、包括連携地域に関する図書・資料、地域情報誌、レファレンス資料、新聞などを排架します。

(2)独自分類

学部カリキュラムの体系を踏まえた独自の「観光まちづくり分類(KM分類)」を導入し、皆さんが図書や資料を探しやすく工夫しています。

KM分類	
KM0	國學院関係・教員図書
KM1	I類：社会
KM2	II類：資源
KM3	III類：政策・計画
KM4	IV類：交流・産業
KM5	メソッド
KM6	ガイドブック

<利用に関して>

(1)利用対象

國學院大学の学生・教職員は自由に利用できます。

(2)閲覧

館内資料はすべて自由に閲覧できます。

(3)開館時間

平日10:30~17:00(土日祝日休み)通年開館。

*大学の夏休み、年末年始の休み、春休み期間は一部閉館。

(4)蔵書検索

館内の蔵書は、専用のOPACおよび大学図書館OPACで検索が可能です。但し、館内の排架情報は専用OPACでのみ検索可能です。

<サービス>

(1)閲覧・貸出・返却

●図書・雑誌等は館内で閲覧してください。

館外への持ち出しは、貸出手続きを経て可能とします。

●貸出できないもの

禁帯出図書・雑誌、統計、レファレンス資料、新聞、新刊本など。

●貸出方法・貸出冊数・貸出期間

貸出は1人について図書は同時に5冊まで可能で、受付カウンターで手続きを行います。

借りた図書は、必ず翌日(開館時間内)までに受付カウンターに返却してください。

※返却期間が過ぎている図書がある場合、その他の図書の貸出はできません。

(2)複写など

館内では複写はできません。

※複写する場合は、貸出手続きをしてください。

(3)レファレンス・サービス

学生・教員を対象に、開館時間内に限り対応します。

<ルール>

個人PCの持ち込みは可としますが、テーブルの長時間の使用は不可とします。学習に必要な図書・資料は、貸出の手続きを取り、定められた場所で学習を行ってください。

以下の禁止事項は遵守してください。

*グループでの利用

*大声での会話/携帯電話での会話

*食べ物の持ち込み・食事(飲み物はフタ付きのものに限り持ち込み可)

*館内・資料の撮影(スマートフォンでの撮影を含む)。但し、許諾を得た場合を除く

※排架：個々の図書館資料を、請求記号などの所定の排列順序に基づいて、書架上に並べること。(図書館情報学用語辞典 第5版より)

「観光まちづくり」フォーラムと「観光まちづくり」カフェ

CMIでは、地域の実践例や他の学術分野とのシナジーにより、「観光まちづくり」に結びつく幅広い学びを生み出すためのイベントとして、「観光まちづくり」フォーラムや「観光まちづくり」カフェを開催しています。

「観光まちづくり」 フォーラム

「観光まちづくり」フォーラムは、本学部の考える観光まちづくりを外部に発信することを目的としたイベントで、年1回開催します。地域の観光まちづくりの実践者数人を招聘し、観光まちづくりの取組み事例の講演や実践者同士のパネルディスカッションなど、観光まちづくりについての幅広い議論が展開される場となっています。

本フォーラムは、オンライン視聴の参加申し込みも受け付けますので、誰でもリアルタイムに参加でき、実際にチャット機能などで質問もできるようになっています。開催が近づきましたら、皆さんにオンラインのURLを案内しますので、積極的に視聴してください。



2020(令和2)年度、2021(令和3)年度に、以下の「観光まちづくり」フォーラムが開催されました。

◆第1回 2020(令和2)年11月26日(木)

「観光まちづくり」フォーラム～持続可能な地域づくりに向けて～
パネルディスカッション・テーマ：

「地域を見つめ、地域を動かす」

◆第2回 2021(令和3)年11月8日(月)

「観光まちづくり」フォーラム～持続可能な地域の実現に向けて～
パネルディスカッション・テーマ：

「私たちの考える観光まちづくり」



◆第1回 2021(令和3)年7月7日(水)

テーマ:「神道とまちづくり」

ゲスト: 神道文化学部 平藤 喜久子 教授



「観光まちづくり」 カフェ

「観光まちづくり」カフェは、ざっくりばらんな形で行われる、学部内での勉強会・交流会で、年3～4回開催する予定です。地域で活躍している観光まちづくりの実践者及び観光まちづくりに関連する研究者や専門家による講演の後、ゲストと教員によるパネルディスカッションや意見交換会を通して、相互の理解を深めていく形となっています。

2021(令和3)年度は、以下の「観光まちづくり」カフェが実施されました。

※ 本年度の学生の参加形態については、現在検討中です。



◆第2回 2021(令和3)年10月6日(水)

テーマ:「神棲むムラの観光まちづくりとこれから」

ゲスト: 株式会社 高千穂ムラたび
飯干 淳志 氏

フォーラムやカフェの詳細については、冊子『観光まちづくり』に報告記事が掲載されています。

奨学金について

國學院大學では、学生の学びをサポートするため、下記のような多様な奨学金を用意しています。申請条件、申請期間等は、変わることがありますので、ホームページで随時確認してください。

國學院大學学内奨学金(給費)ホームページ
<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/scholarship/p2>

学業奨励支援制度

- ◆國學院大學成績優秀者奨学制度

修学経済支援制度

- ◆大規模災害学費減免制度
- ◆特例給費奨学金制度
- ◆國學院大學フレックス特別給付奨学金
- ◆教育ローン利子補給制度
- ◆國學院大學留学生奨学金制度

海外活動支援制度

- ◆國學院大學協定留学奨学金
 - ◆國學院大學セメスター留学助成金制度
 - ◆國學院大學セメスター留学学習奨励金制度
 - ◆國學院大學協定留学「標」奨学金制度
 - ◆國學院大學短期留学グローバル・チャレンジ奨学金制度
- ※海外活動・留学の場合、条件によっては休学に伴う授業料の減免の対象にもなります

進路支援制度

- ◆国家公務員採用総合職試験支援奨学金制度
- ◆公認会計士試験支援奨学金制度

特定寄付による支援制度

- ◆カピー奨学生
- ◆ふるさと奨学金制度

※学外奨学金

このほか、地方公共団体や民間団体の奨学金もあります。

インターンシップ

國學院大學では、学生のうちに実際に企業や団体などで働いてみる就労体験、いわゆるインターンシップへの参加を推奨しています。なぜなら、実社会で働くことの楽しさや厳しさを体験することは、自分の人生の目的や意識を見つめ直すことにつながるからです。いうなれば、それは「未来の自分への時間的投資」といってもいいでしょう。

インターンシップの分野は、一般企業から行政機関、民間団体、さらには特定職種別にいたるまで多岐に渡ります。応募の方法も、公募制のもの、大学の推薦に基づくもの、マッチングサービスを経由するものなど多様です。インターンシップを通じて、人生の新たなステージをより具体的に思い描いてみましょう。

例えば、主として以下のような形態のインターンシップがあります。

- ・公募型インターンシップ
- ・学内推薦型インターンシップ
- ・マッチング型インターンシップ
- ・国際インターンシップ

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ
 [窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40

※インターンシップの詳細は、今後別途案内していく予定です。



留学と国際交流



主な留学制度

異文化と触れ合い、世界の多様な文化や価値観、社会のあり方を知ることは、翻って地域を見つめる視野を限りなく広げてくれます。國學院大學では、世界に出て異文化に直接触れ、体験できる留学制度を充実させています。

○夏期・春期短期留学

大学の授業を休まずに異文化を体験できます

夏や春の長期休暇を利用して、海外協定校での外国語集中プログラムに参加するものです。毎年計100人前後の学生が参加している留学入門プログラムです。

○セメスター(1学期間)留学

しっかりと語学力を身につけます

海外協定校への1学期間の留学プログラムです。より高いレベルの語学力の修得と、異文化理解を目的としています。

協定校として、ミズーリ大学(米国)、マニトバ大学(カナダ)、クライストチャーチ工科大学(ニュージーランド)、復旦大学(中国)、国立台湾師範大学(台湾)などの実績があります。

○協定(1学期間～2学期間)留学

現地の学生と一緒に授業を受けます

交換留学生として海外協定校へ1学期間または2学期間派遣される制度です。留学先の一般学生と同じ授業に参加することを原則としています。それによって、よりグローバルな視野を確実に身につけ、地域や日本を相対化し、世界に発信できるような人材の育成を目指しています。



ヨーク・セント・ジョン大学(英国)

○認定(1学期間～2学期間)留学

協定校以外への長期留学も可能です

國學院大學に在籍しながら、本学と協定を結んでいない海外の大学に留学し、修得した単位を本学の単位として認定する制度です。

※以上の他にも、海外で就業体験ができる国際インターンシップや、日本語教育実習等、様々な留学プログラムが用意されています。渋谷キャンパスにある国際交流課では、留学に関する個別相談を随時受け付けており、オンラインでの相談も可能です。留学を考えている学生さんはぜひ利用してください。

※留学のための奨学金

海外留学を希望する者に対して、経済的な支援をし、負担を減らす制度も充実しています。詳細は、国際交流課の個別相談や留学ガイダンスで確認してください。

相談は、国際交流課(渋谷キャンパス6号館1階)へ
[開室時間] 9:00～12:50 13:50～17:00

詳しくはHPで



学内で国際交流

國學院大學では、学生がグローバルな視座を獲得するために、キャンパス内での国際交流やグローバル教育にも力を入れています。



○交換留学生との授業や交流

國學院大學では、海外協定校から毎年20人程度の交換留学生を受け入れています。日本語を学ぶ彼らと、日本に関する授業を英語で受講したり(Japan Studies)、生活サポートや各種イベント(International Coffee Hour等)を通じて共に交流しながら、多様性のある学びを経験することができます。詳しくは国際交流課に問い合わせてください。



○外国人研究者との学術交流

國學院大學では世界各国から研究者を招聘し、研究成果をあげています。また、外国から研究者を招いてのシンポジウムなども行っています。

キャリアサポート



小学校から大学まで約16年間に及ぶ学校教育期間を終え、いよいよ社会へ羽ばたこうとする時、私たちは何を考えるのでしょうか。グローバル化、人工知能AIの発達、地域紛争など混沌とした世界情勢。これから飛び込むとしている世界は、予測不能かつ日々めまぐるしい変化をみせています。そこにどう向き合っていけるか。すべては本人次第です。

世界に羽ばたこうとしている学生の背中をそっと押してあげる、そのような支援を行っています。

カリキュラムとの関わり

國學院大學の授業科目は、共通教育プログラムと専門教育科目に分けられます。共通教育プログラムでは教養を、専門教育科目では専門性を身に付けます。これに実践力を付与するものとしてキャリアサポートがあります。

資格と講座

國學院大學では、課程の中で「なりたい自分」を叶えるために、博物館学芸員養成課程、神職課程などを提供して自己実現をサポートしています。また、外部機関と連携した資格講座、検定などの受講相談やサポートも積極的に行っています。

(例えば、日商簿記検定3級対策講座、行政書士対策講座、宅地建物取引士対策講座、ファイナンシャルプランニング検定3級対策講座、税理士対策講座、宗教文化士(認定資格)など)

国家公務員採用総合職試験支援奨学金制度

国家公務員を目指す人を対象としたキャリア形成をサポートするための奨学金制度です。

奨学金額：本学指定の外部セミナー等の受講料及びセミナー教材費

対象：学部2年次後期に実施する選考試験を受験し、本学指定の学部セミナー等を指定した期間を通して受講できる者

キャリア形成サポートの詳細は、今後別途案内していく予定です。

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ
[窓口受付開室時間] 9:00～12:45 13:45～16:40

就職・進路の支援



一口に「就職」といっても、民間企業へ就職、行政機関に公務員として就職、資格を取って就職など、様々な形があります。いずれにしても学生生活の間にしっかり準備して臨むことが重要です。特に民間企業への就職では、就職活動の早期化が進んでおり、入学後、学びを深める中で常に考え、早めに準備を進めておく必要があります。

國學院大學では、就職率だけではなく、就職後の学生一人一人の満足度を特に重視して支援をしています。学生の皆さんが希望する道に進み、社会で活躍し、より充実した人生を送るために、様々な就職支援を企画しています。

たまプラーザキャンパスの就職支援は、たまプラーザ事務課と渋谷キャンパスのキャリアサポート課とのダブル支援体制で行います。

例えば、就職関連の専門アドバイザーを迎えて、一般企業の就職対策をはじめ、公務員試験対策の個別面談や講座を開講します。また、学生一人一人の状況に適切に対応できるよう、業界分析を踏まえた就職支援の企画を検討・実施します。就職活動に取り組む学生を対象とした大学独自のセミナーや合同説明会を数多く開催していますので、積極的かつ気軽に参加してください。

主な就職支援企画

ガイダンス…就職ガイダンス 就活スタートアップガイダンス など

各種講座…自己分析&書類対策講座 たまプラ就職ゼミ など

模擬試験…SPI対策模擬試験 模擬面接指導会 など

個別指導…進路調査面談 就職アドバイザー など



公務員試験に向けたサポート

就職・進路先として公務員は根強い人気があります。ただ、公務員といっても総合職・一般職から専門職まで様々な職種があり、それぞれ異なる内容の採用試験が行われます。自分の希望をしっかりと考えたうえで、筆記試験、人物評価試験(面接、集団討論、小論文等)などの試験対策を早めに始めておく必要があります。そのため、國學院大學では、1・2年次から様々な支援プログラムを用意しています。例えば、以下のようなプログラムがあります。

- ・PCAP(実践的キャリア開発プログラム)
- ・K-PLAS国家公務員総合職コース など

就職・進路支援の詳細は、今後別途案内していく予定です。

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ
[窓口受付開室時間] 9:00～12:45 13:45～16:40

観光まちづくりに活躍している先輩からの

応援メッセージ

「佐渡島の金山」

の世界遺産登録を目指して



小田 由美子

新潟県教育庁文化行政課
世界遺産登録推進室 室長

その地域に住む人たちが誇りを持って暮らすために

日本で世界遺産登録が始まった頃は文化庁自らが選定した文化資産を国内暫定一覧表に記載し、その中から順次、ユネスコへ推薦していたのですが、2006年から文化資産の提案を公募するようになりました。その年、新潟県と佐渡市は共同で佐渡金銀山の世界遺産登録推進事業に取り組むことになりました。私が県教育庁文化行政課に異動し、世界遺産担当となったのはまさにその推進事業が始まる時でした。

あれから16年経った2022年「佐渡島の金山」の世界遺産推薦が決まりました。ここに至るまでには國學院大學観光まちづくり学部初代学部長の西村幸夫先生や、パブリックデザインを担当される南雲勝志先生など多くの方々の協力をいただきました。

世界遺産登録推進事業は今考えると、まさにまちづくりそのものでした。例えば、南雲先生にもご協力をいただいた旧佐渡鉱山の一大拠点となった北沢地区工作工場群跡地広場を整備する際、土の中からさまざまな遺構が掘り出されました。他にも調査で明らかになった遺構がたくさんあります。地域に埋もれた歴史や文化を見つけ、現代に蘇らせることはまちづくりの一つでしょう。

そして何よりもまちづくりの核は、その地域に暮らす人たちが誇りを持って暮らすためにどうすればいいのか、それを地域の人たちと一緒に考えていくことだと思います。

私はもっと佐渡について知りたい、住民の方々とながりたいと思い、佐渡に一軒家を借り、週末ごとに新潟市から通い始めました。

当初、世界遺産登録に賛成する地域住民ばかりではありませんでした。世界遺産登録の条件として、まずは国の文化財に指定されなければなりません。さらに周辺の景観保全も必要です。ある歴史ある集落では道路を拡張したいと考えていました。しかし、道路を拡張すると景観



集落の方々と勉強会後は懇親会で交流を深めた

プロフィール 1989年國學院大學大学院前期課程修了(日本史学考古学専攻)。91年新潟県教育委員会文化財調査員採用、県内各地の公共事業に伴う発掘調査等に従事。2006年同県教育庁文化行政課埋蔵文化財係副参事(世界遺産担当)になり、以後、佐渡金銀山の世界遺産登録推進で中心的役割を担う。同課世界遺産登録推進室政策企画員(調査研究担当)を経て、20年より現職。



海外専門家を案内し遺構の説明を行う

が損なわれてしまいます。集落の人々と話し合いを重ねましたが、平行線をたどるばかりでした。そうした時、住民の皆さんと私たち行政担当者が3日ほどかけて過疎地域で国の重要文化的景観という文化財に選定された四国地方の先進事例の視察に行きました。これを機に、自分たちの集落が今後も残る続けるために世界遺産登録を活用しようとする住民が増えてきたのです。また、3日間寝食を共にしたことで、住民の方々との精神的な距離が近くなり、一緒に歩めるようになりました。

佐渡独特の文化や歴史の奥深さ、人々の温かさに魅了された私の“佐渡愛”はこれからも決して褪せることはないでしょう。

いろいろなことに興味を持って多くの経験を積んでほしい

学生時代、私はよく発掘調査のアルバイトをしました。また、時間を見つけては博物館や美術館を巡りました。そうした経験は社会人になっても何一つ無駄になっていません。観光まちづくり学部の学生の皆さんには、いろいろなことに興味を持って多くの経験を積んでほしいと思います。コミュニケーション能力を高めることも大切です。旅行をし、その土地の人たちと話をするのもおすすめです。海外の人と会話をするために英語力も必要です。

好きな考古学を活かした仕事に就けるか、不安に思ったことも度々でした。しかし、諦めなかったからこそ道が拓けたのです。皆さんも自分の夢を持ち続けてください。

少子高齢化が進み、地域の活力が低下している中で地域活性化を担う人材が以前にも増して求められています。観光まちづくり学部はまさに時代が求めている人材育成の場になると大いに期待しています。

取材日：2022年2月

地域が連携するからこそ実現可能な新事業を展開

プロフィール 1991年國學院大學文学部文学科卒業。同年秩父市役所に入職し、96年から観光行政に携わる。道の駅ちちぶを立ち上げ、その後駅長として出向。秩父観光協会事務局長への出向などを経て2010年から一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社の設立準備を開始し、12年に公社を設立。14年に法人化したのち、事務局長として出向し、現在に至る。

井上 正幸

一般社団法人秩父地域
おもてなし観光公社 事務局長

秩父のファンを増やして人口定住を促進

埼玉県秩父市は私の出身地で、都心から電車で約2時間の“ちかいなか(近田舎)”です。大学卒業後、秩父市役所に入職してからこれまで配属されたのは収納課、企画課、観光課の3課のみ。その間、観光課に20年以上在籍し、自分が提案した道の駅の運営担当者、秩父観光協会、現在の職場と3回出向しています。異動が多い市役所においては、私は特殊な市役所人生を歩んできたといえます。

秩父観光協会から市企画課に戻った時、担当したのが、総務省が推進する施策「定住自立圏構想」でした。これは、市や町村が協力して医療や教育、産業振興など生活に必要な機能を確保し、人口定住を促進することを目的としています。この一環として、1市4町(秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町)の観光連携を推進する「秩父地域おもてなし観光公社(以下、公社)」の設立を提案したところ、道の駅のとくと同じように事務局長として運営を任されたのです。

私が公社で取り組みたかったのは、それぞれの観光協会や行政だけではできない、つまり地域が連携するからこそ生きてくる新事業です。例えば広域レンタサイクル事業では、1市4町それぞれに設けたサイクルステーション相互での乗り捨てを可能にしました。こうすることで観光客に広域の魅力を知ってもらえるようになりました。

修学旅行生が一般家庭でホームステイする「農泊」も広域で取り組むからこそ実現できた事業です。最初、私は広報で募集すれば十分な受け入れ先が集まると思っていました。ところが、手を挙げてくれたのはわずか6軒！200人の修学旅行生が来ることになっていたので、1軒1軒お願いしてどうにか70軒ほどを確保しました。農泊を



1市4町のサイクルステーション相互で乗り捨てできるレンタサイクル



農泊の修学旅行生を歓迎する地域の皆さん

やってよかったと思うのは、生徒たちが「帰りたくない」と言って泣き出すなど心温まる光景があらこちらで見られることです。観光スポットがなくても、住民や暮らしが観光資源になるのです。

最近は、コロナ禍で売上が落ちた商店街の方が飲食支援のクラウドファンディングを公社でしてほしいと依頼してきたり、みんなで一緒にスーパーやデパートで特産品を売りたいという相談があったりと、地域住民が公社を活用する動きも出てきています。

私が理想としているのは、秩父と聞いたら景色がいい、おいしいものがたくさんあるとみんなが思うようになることです。そうすれば秩父のファンが増え、その中から定住者も出てくるでしょう。

先日、ある移住された生産者から「パッケージに“秩父”と入れたら商品が売れるようになった」と言われました。それを聞いた時は本当に嬉しかったです。

自分の生まれ育った地域をどうすればよくなるかを考えよう

私は元々、人と話をするのがそれほど得意ではありません。その自分を変えてくれたのは國學院大學です。クラスにはさまざまな地方の出身者がいて、それぞれ個性豊かでした。みんなと話をして、たくさんの刺激を受けました。特に仲の良かった友人は今、地域ブランドづくりに携わっています。彼の頑張りが励みとなって、私はここまでくることができたといっても過言ではありません。

学生時代にいろいろな人と付き合っって多様な考え方を吸収してください。地域づくりで最も必要なコミュニケーション力を養うこともできます。

もう一つ、自分の生まれ育った地域に愛着を持ち、どうすればもっと良くなるかを常に考える癖をつけてほしい。それが地域づくりの原点だと思います。

取材日：2022年1月

たまプラーザキャンパス

主な施設紹介

東急田園都市線たまプラーザ駅から静かな住宅街を進むとたまプラーザキャンパスが見えてきます。正門を入ると目に飛び込んでくるのは木材の意匠が印象的な1号館です。その先には2号館、さらに歩を進めると広い球技場にたどりつきます。その向こうにある緑色の屋根の建物が観光まちづくり学部の学びのメイン施設、若木21です。



たまプラーザキャンパス

- | | | | |
|---|---|---|---|
| ① 1号館
講堂／教室／理科実験室
ピアノレッスン室／音楽教室
調理実習室／図画工作室
被服実習室／リトミック室
コンピュータ教室
たまプラーザ事務課／教員室
保健室／学生相談室
教育実践総合センター
生協売店／多目的室／乳児室
観察室／保育室
実験実習室／ICT教室 | ② 2号館
人間開発学部研究室・資料室
図書館・視聴覚ブース
カフェラウンジ「万葉の小径」
③ 3号館
研究室／資料室／
地域ヘルスプロモーションセンター
④ SPORTS SQUARE 1
アリーナ／剣道場
測定室ほか | ⑤ 5号館
和室／アトリエ
体育系クラブ・サークルフロア
学術・文科系クラブ・サークル
フロア
音楽・演劇練習室／収蔵庫
⑥ 若木21
研究室／演習室／教室／
教員室／スタジオ／
多目的ホール／CMI
スカイレストランヒルトップ
⑦ SPORTS SQUARE 2 | ⑧ SPORTS SQUARE 3
柔道場
トレーニングルーム
多目的ホール
ミーティングルーム
⑨ 青葉寮(スポーツ学寮)
⑩ 野球場
⑪ 球技場
⑫ テニスコート
⑬ 遊歩道(万葉の小径) |
|---|---|---|---|



1号館



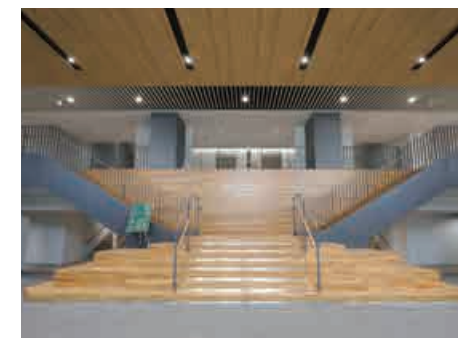
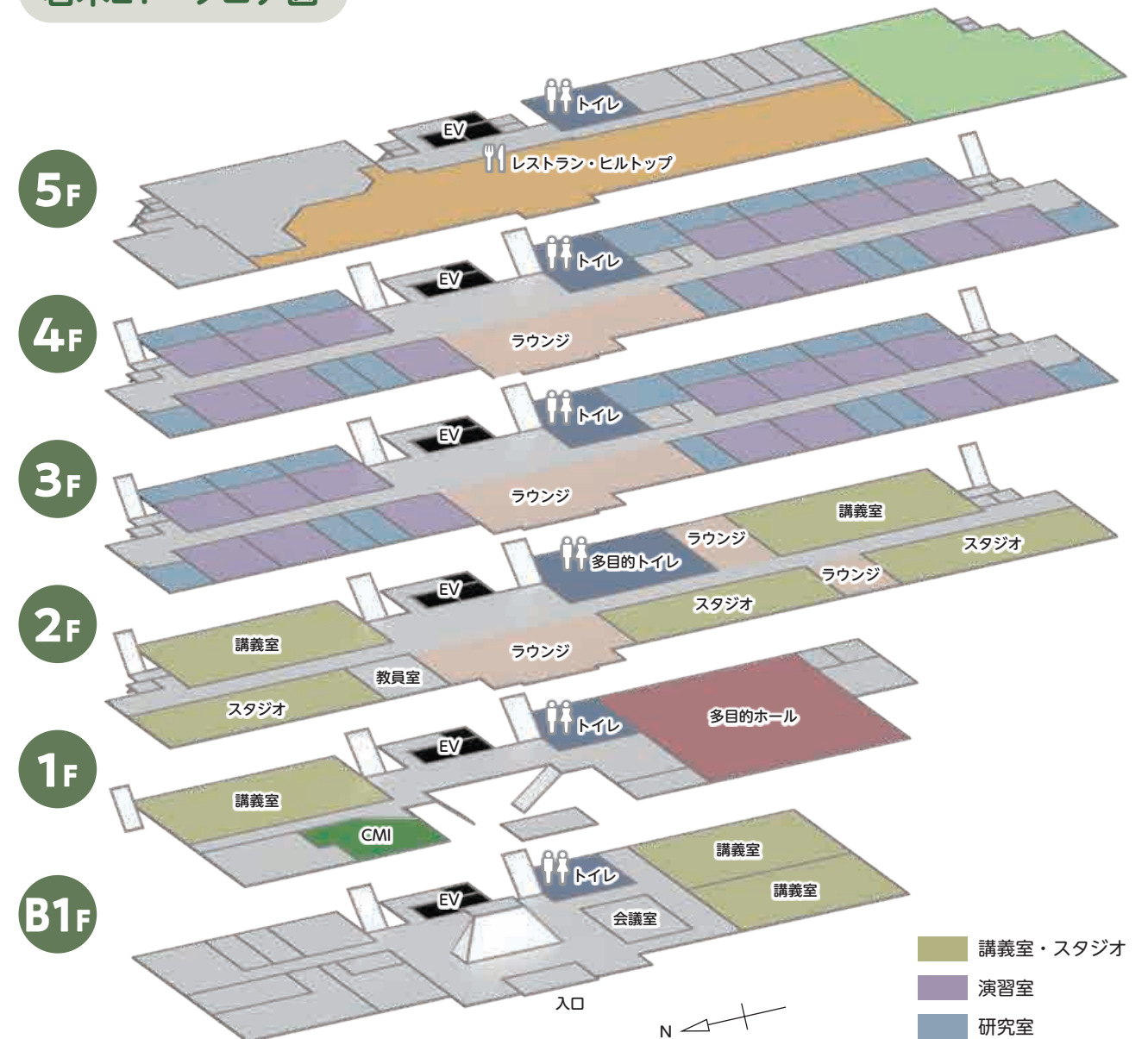
球技場から見た若木21



若木21エントランス

観光まちづくり学部の学びのメイン施設 [若木21]

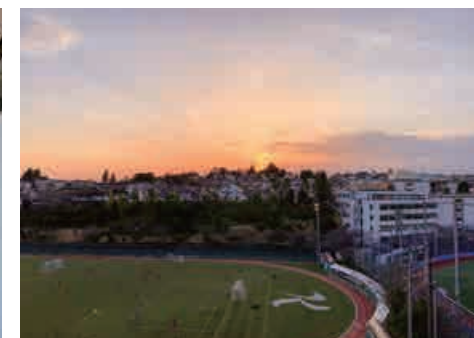
若木21 フloor図



エントランスホール



ラウンジ



ラウンジからのぞむ夕日

学びのメイン施設 [若木21]

若木21は観光まちづくり学部の新設に合わせて内部をリニューアル。大型モニターなど最新設備を導入し、内装デザインにもこだわり、キャンパスライフの充実が図られました。教員や学生たちが議論し、語らい、笑い合う、そんな光景があちらこちらで繰り広げられます。



講義室

スライドやパワーポイントを映す大型モニターが設置されており、オンライン授業や外部のゲストスピーカーを招くときにも対応。



演習室

全面ガラスのドアとスケルトン天井というスタイリッシュな環境の中で学ぶことができます。教員の研究室が隣接しているので質問や疑問などがあれば気軽に行けるのも特長です。

学食 5階には眺めがバツグンのスカイレストランがあります！



スカイレストラン「ヒルトップ」

素晴らしい景色を眺めながらの食事タイムはなんと贅沢。眼下には広々とした球技場が、正面には図書館などがある2号館や緑豊かな万葉の小径などが目を楽しませてくれます。



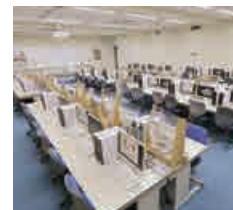
和室

5階にはスカイレストランに加え、床の間や炉が切られた本格的な茶室や、広い和室も設けられています。茶道部の練習の場となるほか、近隣住民が利用することも可能です。

麺メニュー
人気No.1はまぜそば
魚介豚骨風味

休憩と自習のスペース

1号館や若木21をはじめ、キャンパス内の建物には、ところどころに休憩スペースが設けられています。また、授業以外の時間を有効活用できる自習スペースもあり、快適な学びをサポートします。



コンピュータ教室

1号館2階にあるコンピュータ教室にはパソコンが何十台も配置されています。各学生に与えられているアカウントで操作を開始。快適なネットワーク環境のもとで自主学習ができます。

自習スペースとコピー機

パソコン作業ができる自習コーナーは課題をこなしたり発表準備に使ったりできると学生たちに好評。学生専用のコピー機も設置されており、適宜利用できます。



ホール(1号館)



生協のすぐ近くに、おしゃれなテーブルが配されたホールがあります。生協で購入したランチを食べたり、友達と会話を楽しんだり、リフレッシュするのに最適な場所です。

図書館 [2号館] 2～4階 (4階が入口)

國學院大學の建学の精神は告諭に謳われているとおり、「本ヲ立ツル」ことにあります。それは、史資料を有効に利用した学び・探求にほかなりません。國學院大學の図書館には180万冊以上もの本が収蔵されています。たまプラーザキャンパスの図書館は1992(平成4)年、2,345㎡の広さで開館しました。



自主学習スペース

図書館では、単に本を借りるだけでなく、新聞記事や視聴覚資料などの閲覧、セルフサービスなどでのコピーなどもできます。また、静かな環境で自習できるスペースなども用意されています。



たまプラーザキャンパスの図書館は、人間開発学部の学びに関連する教育関係や絵本などが多数集められていますが、観光まちづくり学部の開設に合わせて観光やふるさと創生、民俗学などの資料の充実も図られています。本学部長の西村幸夫教授の著書も揃っています。蔵書検索システム(OPAC)で検索できるほか、貴重な資料やコレクションは「図書館デジタルライブラリー」で閲覧できます。探している本がない場合は、渋谷キャンパスやレファレンスサービスでほかの図書館などから取り寄せるサービスも提供されています。

利用ガイド

【開館時間】

9時～19時30分(月～金曜)
9時～16時30分(土曜)

詳細は図書館ホームページ

<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/lifesupport/library>

情報メモ

利用できる 他大学の図書館

(2022年2月7日現在)

渋谷、たまプラーザ両キャンパス周辺には、國學院大學生であれば館内利用などができる図書館が多数あります。

「横浜市内大学図書館コンソーシアム」……………神奈川大学図書館など12館
「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」…学習院大学図書館など8館
「渋谷4大学図書館連携」……………青山学院大学図書館など3館

博物館

渋谷キャンパスには國學院大學博物館があります。日本文化の講究に必要な文化財を収集・保存し、学術的な研究成果を一般に公開するとともに、広く学内外の研究教育活動に資することを目的として設置されました。常設展、企画展ともに國學院大學の学生に限らず誰もが無料で観覧できます。

また國學院大學の学生は、東京国立博物館をはじめ、国立美術館(6館)について、学生証を提示するだけで、無料(所蔵作品展)ないし割引(企画展)で観覧できます。

快適なキャンパスライフ
のためのサポート

[1号館／SPORTS SQUARE]

手続き・就職支援(1号館)



たまプラザ事務課

教務や学生生活、キャリアサポートなどの窓口があり、大学生活や単位履修などを総合的に対応しています。困ったこと、わからないことなどがあった時は、気軽に相談・質問できます。



証明書発行機

就職するときや定期を買うときなど、証明書の提出を求められることがあります。証明書発行機が設置されているので、必要などきにいつでも証明書を入手できます。



キャリアサポートスペース

自分の適性や価値観などに応じた進路選択ができるよう、高い専門性をもった職員が個別相談を行っています。就職活動や進路に関する雑誌やパンフレット、求人票なども多数用意されています。

体と心の相談(1号館)



保健室

常に2人以上の保健師が常駐し、学内で生じた外傷などに対して応急処置を行っています。また、必要に応じてたまプラザ周辺の医療機関へ紹介したり、健康に関する相談に応じたりもしています。



学生相談室

「大学でやりたいことが見つからない」「満足感や充実感がない」「夜眠れない」など自分一人では解決しにくい問題や悩みに、専門の訓練と経験を積んだスタッフ(臨床心理士・公認心理師・精神科医)が対応します。

國學院大學生協 (1号館地下1階)



軽食や飲み物のほか、文房具や参考書などが販売されています。授業で使用する教科書も購入できます。國學院大學オリジナルのクッキーやこくぴよんのぬいぐるみなどのグッズも充実。運転免許取得や各種資格講座の申し込み、卒業式の着物・袴のレンタルなどのサービスも行っています。

スポーツ・健康づくり(SPORTS SQUARE)

國學院大學は野球や柔道、陸上など運動部の活動が盛んです。体育実技の授業や課外活動のための施設がSPORTS SQUARE(スポーツスクエア)1～3です。本格的なトレーニング機器やトレーニングルームが完備されています。



SPORTS SQUARE 3



トレーニングルーム

憩い・交流 [2号館]

散策できる「万葉の小径」(遊歩道)

キャンパス正面右手の公道沿いの歩道から2号館奥の緑地公園までの一帯は万葉集に歌われるさまざまな植物、約150種が植栽されています。植物の名とともに大伴家持らの歌が書かれたプレートも配され、万葉集に親しみながら散策できます。



おいしい食事や飲み物を楽しめる 「カフェラウンジ万葉の小径」



万葉定食などさまざまなメニューを楽しめます。どれも美味しくてボリューム満点。しかも栄養バランスも考えられています。万葉の小径に面したオープンテラス席では、心地よい風に包まれながらお茶や食事を楽しめます。

人気No.1は



名物「鶏天丼」

一人暮らしのサポート [学寮]

國學院大學では、親元を離れて一人暮らしをする学生が、安心かつ安定した学生生活を送る環境を提供するため、東急田園都市線沿線に男女それぞれの寮をもっています。たまプラザキャンパスだけでなく、渋谷キャンパスへのアクセスも便利です。寮には留学生もおり、共に生活しながら異文化理解を深めることもできます。

●学寮 常磐木^{ときわぎ}(女子寮)

食堂や学習室、会議室、ランドリーなどの共用設備が揃っています。各部屋でのインターネット接続も可能です。



所在地 横浜市青葉区荏田町434-1
最寄駅 東急田園都市線江田駅徒歩8分
入寮定員 一人部屋 114名
寮費 月額70,000円(電気料金とインターネット使用料込)
食費(参考) 月額18,480円(朝夕2食) 土日祝日を除く21日換算

たまプラザ
まで18分

●学寮 まほろば(男子寮)

食堂や大浴場や、ランドリー、IHキッチンコーナーなどがあり、玄関はオートロック、インターネット接続も可能です。



所在地 川崎市宮前区宮崎1-6-15
最寄駅 東急田園都市線宮崎台駅徒歩5分
入寮定員 一人部屋 72名
寮費 月額62,300～67,300円(月～土曜夕食込)

たまプラザ
まで15分

※学寮の詳細は、渋谷キャンパス学生事務部学生生活課へお問い合わせください。電話：03-5466-0145 E-Mail：gakusei_s@kokugakuin.ac.jp

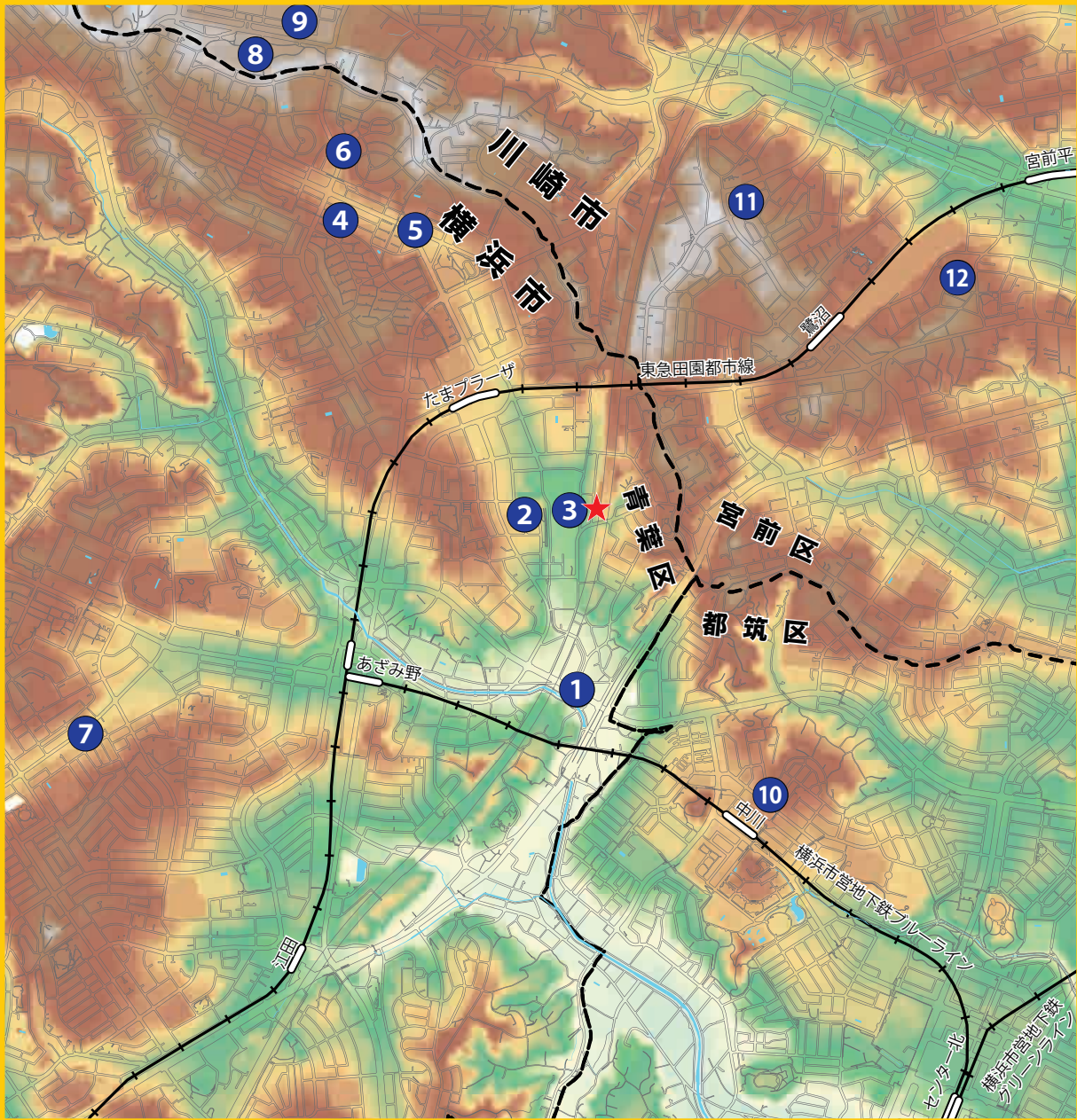
地形図で見るたまプラーザキャンパス

たまプラーザキャンパスのある横浜市青葉区は、東を都筑区、西を町田市、南を緑区、北を川崎市に接しています。その面積は35.06km²。横浜市内では戸塚区に次ぐ広さです。

横浜といえば、「港」や「海」をイメージするかもしれませんが、「丘」や「坂」をイメージできるのも特長です。青葉区は、多摩丘陵の東端に位置し、海拔高度が高く、起伏に富んだ地形となっています。区の中央部を流れる鶴見川をはじめ、早渕川や恩田川などのいくつもの河川が丘陵を分断・削剥して谷底低地を樹枝状に形成しており、かつては台地と低地の織りなす緑豊かな里山景観が広がっていました。

造成・宅地化が進んだ現在でも、まちを歩いたり、公園や緑地を散策したりすると、その地形や景観を感じ取ることができます。たまプラーザキャンパスも、野球場や競技場のある低地、1号館や若木21などのある台地からなります。1号館と2号館の階数のズレも、横浜の「丘」「坂」を象徴しています。

- ①早渕川 ②國學院大學たまプラーザキャンパス・万葉の小径 ③桜並木 ④美しが丘 ⑤100段階段
⑥フルドサック ⑦桜通り ⑧菅生緑地 ⑨川崎市中央卸売市場北部市場 ⑩中川 花と緑の散歩道
⑪鷺沼北公園(梵天山) ⑫東京メトロ鷺沼車両基地



★若木21

15 90 0 0.5 1 km

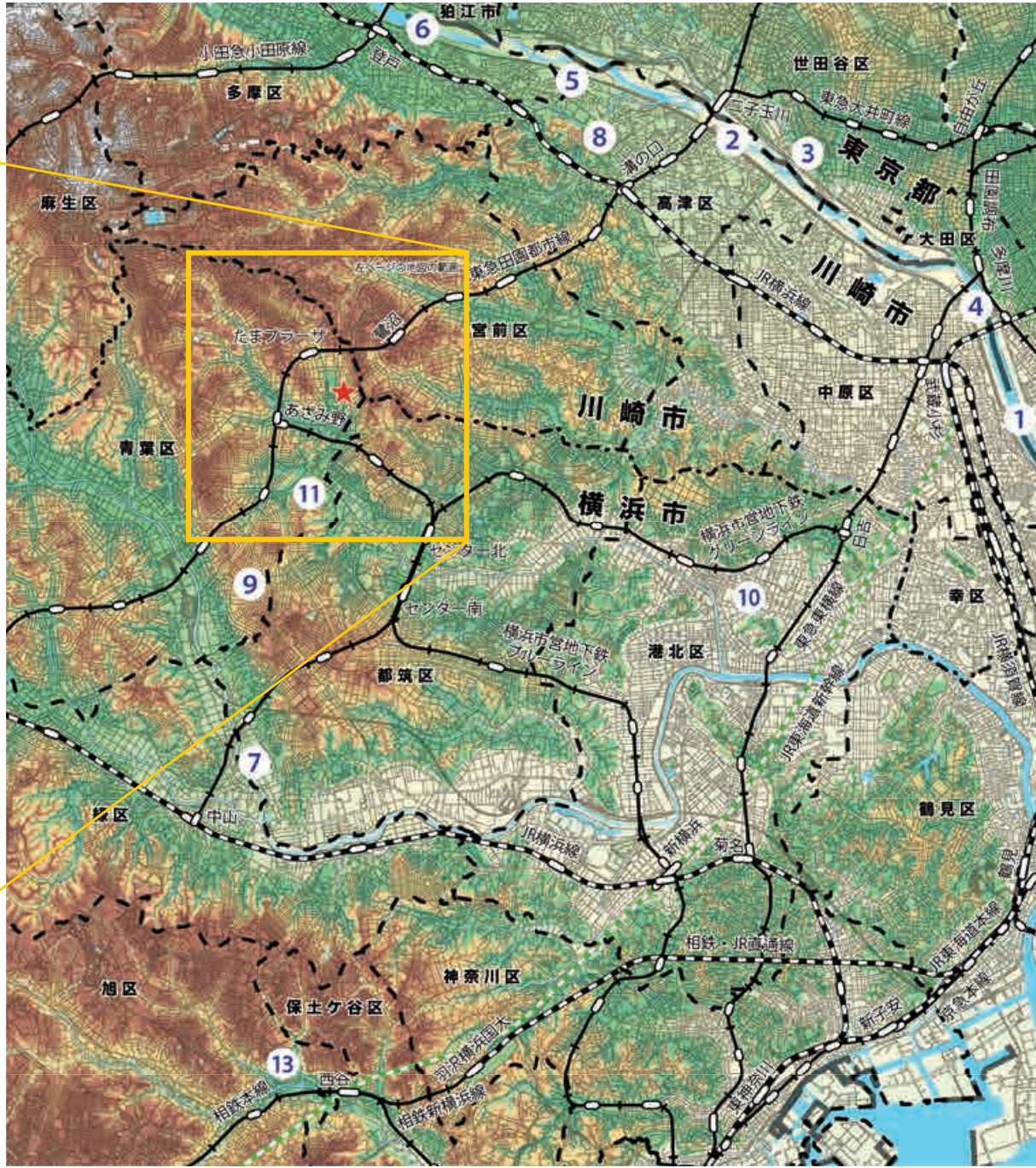


この地形図は、地理情報システム(GIS)を利用して本学教員が作成したものです。

地形図をじっくり見たら、次は現地を歩いてみるのが、「観光まちづくり」への一歩です。自分で情報を調べつつ、キャンパス周辺を散歩・散策してみましょう。また、GISを使って色々な地図を作ってみるのも良いでしょう。QGISという、無料のGISもあります。

いろいろなことが発見できるかもしれません。

- ①多摩川 ②二子橋 ③等々力溪谷 ④多摩川浅間神社・丸子の渡し ⑤宇奈根の渡し ⑥登戸の渡し
⑦鶴見川 ⑧津田山 ⑨鎌倉街道・中道 ⑩鎌倉街道・下道
⑪矢倉沢往還(大山街道・厚木街道・国道246号) ⑫多摩川低地 ⑬帷子川



★若木21

0 120 0 1 2 4 km

入学者受入れ方針 ～ アドミッション・ポリシー～

観光まちづくり学部では、以下のような学生を受け入れます。

- ・観光・交流を通じた持続可能な地域の形成や振興に関する学問的な基礎を学びたいという意欲がある者。
- ・上記の学問的な基礎をもとに、地域社会の再生、活性化及びまちづくりに貢献したいという意欲がある者。
- ・既存分野の壁を越えて能動的に学ぶ向上心を保持し、積極的に地域に働きかけようという意欲がある者。

上記の方針に基づき、以下の観点で入学希望者を審査します。

【AP1】本学部で学ぶ分野に関する教科・科目について、高等学校卒業程度の基礎学力を備えているか。

【AP2】地域社会やその持続可能性に対して問題意識を持ち、論理的に考え、自分の考えを表現するための基礎的な力を持っているか。

【AP3】自身の興味・関心にしたいがい、主体的に活動に取り組み、またはその成果について第三者からの評価を得ているか。

入学までに身につけるべき教科・科目

「国語」「数学」「外国語（「コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」）、「英語表現Ⅰ、Ⅱ」]」を中心とした基礎学力を前提に、「地理歴史」「公民」「理科」の中から幅広く学習していること。

一般選抜入学制度(個別学力試験)について

	V方式(大学入学共通テスト利用入試)		A日程			B日程
	3教科型	5教科型	3教科型	得意科目重視型	学部学科特色型	
試験日	1/14(土)・1/15(日)		2/2(木)	2/3(金)	2/4(土)	3/2(木)
概要	大学入学共通テストの成績のみで判定		本学独自の個別入学試験のみで判定(オールマークセンス方式) 日程により判定方法の異なる3タイプの入試			・本学独自の個別入学試験のみで判定 ・数学は記述式、その他はオールマークセンス方式 ・英語検定試験スコア利用可能
科目・教科	必須：「外国語」から1科目 選択：「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」の5教科から2科目(「理科」で「理科①」を選択した場合は3科目)	必須：「外国語」から1科目 選択：「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」の5教科から4科目(「理科」で「理科①」を選択した場合は5科目)	以下3科目による受験。(いずれも必須) ・「外国語」 ・「選択科目(日本史B、世界史B、政治・経済、数学ⅠAおよびⅡBから試験当日に択一)」 ・「国語」または「理科(物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から試験当日に択一)」			以下2科目による受験。 必須：「外国語」 選択：「国語(現代文)」または「数学(数学ⅠA)」から1科目

※詳細は、令和5年度一般選抜入学試験要項(受験ガイド)をご確認ください。

総合型・学校推薦型選抜入学試験 「選考のポイント」

志望理由書

何のために本学に入学しどのように学ぼうと思っているのか、また、社会に出てどのように活躍したいと思っているのか、さらに、自分をしっかりと分析し、優れているところをアピールしてください。あなたが住んでいる地域やゆかりのある地域に対して、どのような興味・関心を抱いているか、また、もしあればそうした地域とどのように関わってきたかを記してください。

活動レポート

自分自身の学びの経験について、主体的に学び経験してきたことを中心に、設定したタイトルに沿って記してください。なお、こうした活動を証明できる書類等を添付してのアピールも可能です。

面接試験

面接官に論理的かつ独創的にアピールできる表現力を評価の主な対象とします。その上で、提出した書類を基に質疑を行い、的確に回答できるかも評価の対象となります。

※入学試験制度により、この他にも提出書類を求める場合があります。また、面接試験での質疑内容は入学試験制度により異なります。詳細は各入学試の入学試験要項をご確認ください。

	入学制度	選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度の狙い
一般選抜	A日程	個別学力試験	◎	○		高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の学力を持つ学生を受け入れます。
	B日程	個別学力試験	◎	○		
	V方式	大学入学共通テスト	◎	◎		
総合型選抜	公募制自己推薦(AO型)	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を、第1次選考(調査書、志望理由書、活動レポート、観光まちづくり学部独自課題に基づく書類選考)、第2次選考(観光まちづくり学部独自課題の説明及び第1次選考提出書類に基づく質疑)の2段階で総合的に選考します。
		志望理由書		◎	○	
		活動レポート		○	◎	
		地域分析レポート	◎	◎		
		解決策提案シート	○	◎		
		面接試験	○	◎	○	
	観光まちづくり学部特別選考	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を総合的に選考します。
		志望理由書		◎	○	
		個別学力試験/大学入学共通テストの成績	◎	○		
	外国人留学生入学試験	志望理由書		◎	○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生で、外国籍であり、日本の高等学校卒業相当の学力を持つ者を、第1次選考(書類選考)、第2次選考(面接試験)の2段階で総合的に選考します。
		活動レポート		○	◎	
		日本語小論文	○	○		
		面接試験	○	◎	○	
	院友子弟等特別選考	調査書	◎		○	院友子弟を対象とし、観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を総合的に選考します。
		志望理由書		◎	○	
		活動レポート		○	◎	
		課題図書に基づくレポート	◎	○		
		地域分析レポート	◎	◎		
		解決策提案シート	○	◎		
学校推薦型選抜	系列三高校推薦	面接試験		◎	○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を本学系列三高等学校の推薦に基づいて受け入れます。
		調査書	◎		○	
		志望理由書		◎	○	
		活動レポート		○	◎	
		資格・検定試験の成績	○		◎	
	協定校推薦	推薦書	○		◎	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生で、本学と連携教育協定の実施を定めている高等学校等の在籍者を総合的に選考します。
		調査書	◎		○	
		志望理由書		◎	○	
		活動レポート		○	◎	
		資格・検定試験の成績	○		◎	
		推薦書	○		◎	
	指定校制推薦	授業レポート	◎	○		本学から依頼した高等学校または中等教育学校の校長の推薦に基づき、観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を、書類と面接試験から総合的に選考します。
		面接試験		◎	○	
		調査書	◎		○	
		志望理由書		◎	○	
		活動レポート		○	◎	
	スポーツ推薦	推薦書	○		◎	本学科での学修に関心があり、かつ運動競技において活躍が期待される者を受け入れます。
		面接試験		◎	○	
		小論文試験	◎	○		
		調査書	◎		○	